

地球環境に配慮できる建築デザイナー・エンジニアを育てる

No.
125
海建

カイケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況



目次

令和8年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計	16
令和7年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績	18
学科イベントカレンダー	3	令和8年度 大学院情報	33
研究室紹介	4	卒業生の就職状況	34

● 令和8年度 研究室説明会日程

ゼミ希望調査締切：4月17日（金） 決定：4月20日（月）

時間 日・教室	1時限	2時限		3時限		4時限
	9:55~10:40	10:50~11:35	11:45~12:30	13:20~14:05	14:15~15:00	15:10~15:55
4月8日(水) 1325教室	北嶋・扇谷研究室 [構造工学]	高橋研究室 [建築構法]	福井研究室 [コンクリート構造工学]	恵藤研究室 [海洋構造デザイン]	居駒研究室 [海洋空間利用工学]	相田研究室 [海洋物理・計算工学]
4月9日(木) 1325教室	佐藤研究室 [建築デザイン計画]	長谷川研究室 [建築意匠・建築設計]	江川研究室 [医療・福祉建築計画]	山本研究室 [沿岸地域計画学]	星上・寺口研究室 [沿岸環境防災]	吉田研究室 [海洋環境情報]

令和8年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	高橋 孝二	1346	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B1 年	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
	扇谷 匠己	1361	047-469-5385	ougiya.narumi@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B2 年	恵藤 浩朗	1345	047-469-5730	eto.hiroaki@nihon-u.ac.jp
	吉田 毅郎	1334	047-469-5421	yoshida.takero@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B3 年	佐藤 信治	1353	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1335	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B4 年	星上 幸良	1335	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
	江川 香奈	1365	047-469-5426	egawa.kana@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyoi@nihon-u.ac.jp
クラス担任大学院	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋	1342	047-469-5423	aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
クラス担任(学生相談)	相田 康洋	1342	047-469-5423	aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

令和8年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	星上 幸良	1335	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1335	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
	扇谷 匠己	1361	047-469-5385	ougiya.narumi@nihon-u.ac.jp
留学生担当	吉田 毅郎	1334	047-469-5421	yoshida.takero@nihon-u.ac.jp
	扇谷 匠己	1361	047-469-5385	ougiya.narumi@nihon-u.ac.jp

学科
事務室〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL : 047-469-5420 FAX : 047-467-9446岡崎 敏美
関野 まゆみokazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
sekino.mayumi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●優等賞（学部4年修了時の成績優秀者【学部】）

野中奈桜 有本百花 池田拓末 藤崎稀央

●加藤賞（最優秀修士論文賞【専攻・桜建会】）

富永玲央：首都圏空港群の再編に向けた新空港の提案
— MICE 施設を併設した海上空港の設計（佐藤研究室）

永吉琉亮：津波波圧を受ける RC 造外壁の崩壊メカニズムと
限界波圧の算定（北嶋研究室）

吉野 竣：損傷評価のための構造モニタリングシステムに関
する研究 — 1 台の加速度計による建物の全体変
形角の算出—（北嶋研究室）

●海建優秀賞（最優秀卒業研究賞【学科】）

浦野深聖：滑り基礎構造建物に生じる最大滑り変位と残留
滑り変位に関する研究（北嶋研究室）

矢木 結：都市部における水辺のマルシェの実態と効果に
関する研究（海洋建築・建築デザイン研究室）

●桜建賞（優秀卒業研究賞【桜建会】）

佐々木省太郎：病院の外來待合空間における患者のニーズを
考慮した建築計画に関する研究（江川研究室）

川神爽来：生態廻帰一環境のゆらぎと共振する水族館—（長
谷川研究室）

清水朝貴・光村美南：ジャケット式棧橋床版に作用する圧縮
空気と波による揚圧力の評価（恵藤研究室）

●海建賞（優良卒業研究賞【学科】）

中村 将：一様流中で回転する円柱に作用する流体力に及ぼす
表面軸方向溝及び直径の影響に関する実験的研究
（居駒研究室）

米村爽汰：沿岸漁業における海女漁の現状とその存続に関
する調査研究（山本研究室）

小沼真拓：MPS 法を用いた津波来襲時の自動係留装置に係
留された船体動揺解析に関する研究（相田研究室）

安里太希：海浜の維持管理に必要な料金徴収制度に関する研
究 — 沖縄県のリゾートホテルを対象とした調査—
（ウォーターフロント都市工学研究室）

青木涼太・奥田光祐：超高層建物のねじれ応答性状に関す

る研究 — 地震動斜め方向入力時を対象とした
検討—（高橋研究室）

酒井 優：水守りの縁側 — 防御の痕跡を、皇居濠をケアす
る水辺へ—（佐藤研究室）

酒井廉斗：家屋倒壊に伴う避難路の通行可否に関する研究
（星上研究室）

井上聡太・佐藤光・高橋凌太：RC 部材のせん断伝達機構に
関する解析的研究（福井研究室）

●桜工賞（学科の名声向上や学科活動への貢献【校友会海洋建築部会】）

矢木 結：広報活動への多大なる貢献（総合型選抜相談会
への継続的な協力）を称えて

小沢政雪：在学中の一級建築士試験「学科の試験」合格を
称えて

安藤大智・萬谷桃香：卒業アルバム委員としての活動を称
えて

●令和7年度（第69回）理工学部学術講演会優秀発表賞

今市尚太：高台移転後の通勤型の漁業形態の実態把握 — 東北
沿岸部の漁業背後集落を対象として—（海洋建築・
建築デザイン研究室）

佐藤航太：海拔0メートル地帯に位置する東京都葛飾区役所
の建て替えに伴う新庁舎の提案（長谷川研究室）

清水 翼：パトランプを考慮した海浜変形予測モデルの構築
に関する研究（星上研究室）

吉野 竣：1 台の加速度計による中高層 RC 造集合住宅の建
物全体変形角の推定（北嶋研究室）

芦ヶ原治希：放置艇対策におけるマリナー等以外施設の整備
状況と開放余地に関する研究 — 千葉県漁港と港
湾を対象とした調査—（ウォーターフロント都市
工学研究室）

中島裕也：交差軸型風車の起動特性における迎角に関する研究
（恵藤研究室）

三田晴貴：東京都墨田区における行政と市民団体の雨水利用
の動向（海洋建築・建築デザイン研究室）

嶋川隼央：みなとオアシス登録港における津波発生時の浸水
と避難の実態（海洋建築・建築デザイン研究室）

学科イベントカレンダー

2026年	
4月3日(金)	新入生歓迎式
5月9日(土)	新入生オリエンテーション
7月中旬	「海と建築」ポスター発表会（1年生）
夏季休暇中	海洋実習Ⅰ（1年生）
	海洋実習Ⅱ（2年生）
10月30日(金)~1日(日)	桜理祭
12月5日(土)	理工学部学術講演会

2027年	
1月第2週	博士論文発表会
2月上旬	卒業研究発表会
2月中旬	修士論文審査会
3月2日(火)	卒業・修了発表
3月25日(木)	卒業式（学位記伝達式）

建築デザイン・計画研究室

1353 室

Teaching Staff



教授
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、「積極的に学習したい!」という学生・院生で構成されています。まずは「建築やデザインが好き!」であることが大前提です。建築をデザインすることは大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイと学んでいきたいと思っております。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画するということが重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで(含、施工)の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、国家公務員の他ゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%(当研究室比)を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施します(写真1)。今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・レーザースキャナーを活用したデジタルツインに関する研究(写真2)
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン
- ・Urban Plan program in Japan (ULI) への参加

〈建築計画テーマ〉

- ・国指定登録有形文化財の調査・研究
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

〈インターンシップ〉

- ・国内外の地方自治体、デザ

イン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して九州や東北の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。2025年は、大阪に赴き、街並みや建築の見学・調査をしました。合宿期間中においては、開催中の大阪・関西万博に訪れパビリオン建築のデザイン意図を調べ、その成果を各種のコンペティションに応募するなど、実践的なゼミ活動を行っています(写真3)。

2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。また、研究室活動としては2022年から横浜市のN地区及びY埠頭におけるランドスケープをデザインしています。さらにアメリカのAIAアジアとの共同プログラムとしてUrban Plan program in Japan(ULI)へ参加しております。

●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行っています。ゼミナールについては、ポートフォリオの作成の指導を包括的に行い、就活に使える技術伝承をしています。また、大学院生や卒研生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しています(写真4)。2025年度は、共立女子大との共同プログラムを行っています。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別の面談を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。



写真1 卒業設計大野紗矢香の作品



写真2 レーザースキャナーによるデザイン解析



写真3 大阪・関西万博のパビリオン建築見学調査



写真4 第13回ヒューリック学生アイデアコンペ「新橋～シン・駅～」タイトル「Shimbashi ReCharge Station」優秀賞

沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff

准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ（旧アクセスディンギー）」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業を中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し（写真1、2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。このような活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりに

ついて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- ①みなと町活性化方策と"環境・観光・学習"港湾計画
- ②沿岸域の防災まちづくりに関する手法論の検討
- ③漁港における観光利用の推進方策
- ④体験観光による地方都市の活性化方策
- ⑤海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- ①高齢者・障がい者と海のUD計画
- ②高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- ①海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計（再生・復興・復活・改革）
- ②Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

写真1 「たてやま海まちフェスタ」
ハンザ乗船会体験

写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 新入ゼミ生歓迎会（神田川クルーズ）①



写真4 新入ゼミ生歓迎会（神田川クルーズ）②

建築意匠・建築設計研究室

1356 室

Teaching Staff



准教授
長谷川 洋平

●研究室紹介

本研究室は2024年度に開設された研究室です。主な活動内容は、建築と都市に関する意匠論的研究および設計です。海洋建築工学科はウォーターフロントの都市・土木に関わる巨大なスケールから、親水空間におけるヒューマンスケールまで広範なスケールの環境を設計対象としています。本研究室では、こうした環境への配慮を前提とした建築のあり方を「ランドスケープとしての建築」と捉え、その設計方法について研究室の皆で考えます。

本研究室は、建築意匠や建築設計に高い関心を持ち、なによりも「建築が好き」な学生たちの主体的な活動によって支えられています。そうした学生たちとともに、建築が成立する環境や社会、建築を成立させるための論理について学んでいきたいと考えています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では4年次に「設計」か「論文」のどちらかを選び取り組みます。将来、設計分野への就職を考えている学生には「設計」の選択を勧めています。大学院へ進学する場合には、建築意匠論に関する研究、または調査・分析をふまえた設計提案付き論文に取り組んでいただきます。

【設計】

- ・環境や場所性を考慮したランドスケープとしての建築
- ・建築の保存・再生 など

卒業設計は壮大な自作自演の物語を紡ぐことだと考えます。物語の結末を鮮やかに描くまで推敲を重ねます。

【論文】

- ・建築家の言説に関する研究
- ・水辺環境に関する建築・都市の空間構成の研究
- ・建築における意匠と技術の関係に関する研究 など

建築や都市の形成に関わる仕組みの一端を明らかにします。建築意匠に関する知識と、仮説を立て検証し論理を構築する力が必要となります。

●ゼミナールのテーマ

3年次に実施される設計製図の授業（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）において、真摯に課題に取り組み、自身の作品を制作することが重要です。その取り組みと並行して、以下の活動をおこないます。

- ①読書ゼミ：建築を設計するためには、建築の歴史を知ることが欠かせません。主に近現代の建築・建築家について調べ、発表会をおこないます。
- ②まち歩きゼミ：首都圏には数多くの建築作品が存在します。優れた建築を知り、実際に体験し感動する行為、建築空間

に打ちのめされるような経験が必要だと考えます。研究室の皆で実際にまちを歩き、建築作品やまちの環境・歴史について学びます。

- ③図書館ゼミ：研究活動に関連する資料について、建築専門誌などを中心に調査し、資料収集と分析、発表会をおこないます。
- ④設計プロジェクト：実施コンペや建築設計業務など、機会があれば研究室で取り組みます。

●年間スケジュール

4月：ゼミ生歓迎会、6月：まち歩きゼミ、8～9月：読書ゼミ発表会／ゼミ合宿、3月：図書館ゼミ発表会

※設計プロジェクト等によりスケジュールを変更する場合があります。

●着手条件

ゼミナール・ガイダンスに出席し、必ず個別面談を受けてください。また面談の際には、デザイン演習の授業で制作した作品を2点以上持参してください。大学院進学希望についても面談時にご相談ください。



手賀沼プロジェクト（海洋建築・建築デザイン研究室と共同）



まち歩きゼミ（上野の建築巡り）



ゼミ合宿（小林直明ゼミと合同）

医療・福祉建築計画研究室

1365 室

Teaching Staff

准教授
江川 香奈

●研究室紹介

当研究室では、医療・福祉関連施設を中心とした建築計画に関する内容を扱っています。また、医療・福祉関連施設以外でも、福祉的環境という観点から、子どもや高齢者が主に使用する空間も対象としています。その中でも、特に沿岸域や水辺に立地する、または水に関連する空間を含めた内容を扱っています。これらの今後の望ましい建築設計に資する知見を得ることを目的とした研究・設計活動を行っています。

一方で、近年は様々な自然災害が頻発しており、近々の災害発生も複数予測されています。このため、平常時だけでなく、災害発生後の建物の使用、及びその施設での活動継続を考慮した施設設計・計画に関する研究も並行して実施しています。

研究活動の成果は社会に還元し、平常時も災害時も使用しやすい施設環境の実現と、その効果が沿岸・水辺を中心とした防災力の強化につながることを目指します。

●ゼミナール活動

医療・福祉環境を中心とした設計及び建築計画学研究に有用な基礎力を、多角的に滋養するために、以下のような各種施設見学会等の参加や、学外施設へのデザイン提案、資料調査等を中心とした活動を行います（掲載写真参照）。

- ・医療福祉施設の建築計画に関する講義
- ・施設見学（病院、福祉施設、図書館、防災関連施設など）
- ・学会主催の講演会の参加
- ・医療救護所設営訓練での傷病者役としての参画

- ・演習：既存病院の改修デザイン案の検討
- ・演習：モバイルクリニックのデザインの提案
- ・既往論文調査と卒業研究への準備

●卒業研究のテーマ

医療福祉関連施設、及び子どもや高齢者が主として関わる空間を対象としたテーマを扱います。3年次後期に設計か計画学研究かを選択し、それぞれの内容に沿った概要とスケジュールを組立てます。計画学研究を選択した場合は、ご自身の興味のあるテーマ、または、研究室で進行している研究内容の一部を担うかを選択できます。成果は学会等にて発表します。

【設計のテーマ例】

- ①高齢社会における農業活動を取り入れた温泉地の活性化プロジェクト
- ②水辺を活用した図書館を併設する福祉関連施設

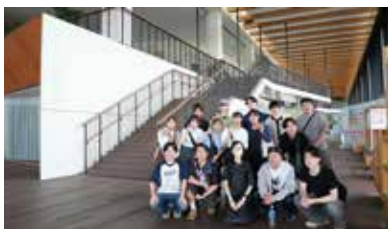
【計画学研究のテーマ例】

- ①海を臨むことができる病院のインテリアデザイン
- ②自然環境を取り入れた病院の待合空間
- ③デイサービスセンターにおける屋外空間の効用
- ④災害時に対応可能な医療施設の整備内容
- ⑤水辺を有する防災公園の整備状況と課題
- ⑥商業施設における帰宅困難者受け入れ対策

上記のテーマ以外でも実施できます。各自の意向、興味のある内容・分野をご相談ください。卒業設計・研究の内容を実践的に進められるように、現地での調査活動に取り組むことができるようにサポートします。また各自のテーマに沿った設計・研究活動を通じ、利用者のニーズや利用状況等を的確に把握・分析する研究手法と、論文作成ができる力を修得できる環境を整備します。

●着手条件

医療福祉関連の施設・空間、または子どもや高齢者に配慮した施設デザイン等に興味があり、入室を検討している学生は、事前に個別面談を受けてください。大学院進学についても、相談時にお伝えください。



防災対応を考慮したアリーナ施設見学会



夏合宿（軽井沢）



病院の改修デザイン案作成のための事前調査



医療救護所設営訓練の参加



モバイルクリニックのデザイン提案

海洋空間利用工学研究室

1341 室

Teaching Staff



教授
居駒 知樹

●研究室紹介

当研究室は海洋空間を幅広く利用することを目的とし、必要な海洋工学技術全般に関わる全ての情報収集と設計アドバイス、共同研究を行っています。最も得意とするのは、浮体式構造物を始めとする海洋構造物の波浪中での耐航性能評価であり、その理論的・数値的手法の開発や新規技術の提案を行っています。具体的な対象として海洋再生可能エネルギーと海洋資源利用に関わる海洋構造物を扱うことが多くなります。設計に至るまでの予測技術が確立されていない、または現象そのものが理解されていないなどの問題や課題を解決する研究を行っています。その代表例として浮体式洋上風力発電設備の波浪一風中での浮体・発電性能評価法の開発や潮流発電用水車、風力発電用風車の高性能化研究を行っています。また、世界で勝負できる性能の振動水柱型波力発電システムを提案し、発電性能のさらなる向上を目指しています。さらに、風力発電開発で行われる沖合での曳航中浮体の挙動解析、風力発電と振動水柱型波力発電のハイブリッド浮体施設の提案とその性能評価法の開発も行っています。その他の海外の大学（スコットランド、中国）との共同研究は希望する学生を待っている状況です。当研究室は理論計算、数値計算、水槽実験を全て駆使して研究しています。

●卒業研究のテーマ

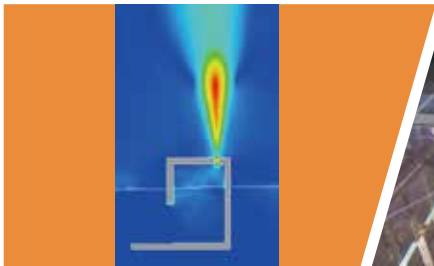
- ①浮体式垂直軸型風車のタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の検討
- ②コンクリート製浮体式洋上風車システムの風一波浪中性能評価
- ③浮体式波力発電装置の高性能化と理論および数値解析法の開発
- ④浮体式垂直軸型潮流発電の実用化と性能評価
- ⑤太陽光発電用浮体システムの提案と波浪中性能評価
- ⑥大水深掘削技術に関わる流体現象の解明
- ⑦海上都市構想などの大規模浮体システムの提案と解析技術開発

●ゼミナール活動

- ・海洋再生可能エネルギーや海洋開発全般を取り巻く現状についての講義
- ・プロミラングによる数値解析スキルの習得
- ・浮体の基本特性に関する水槽実験
- ・ラズベリーパイを用いた電子工作
- ・Fusion360を用いた浮体模型の設計
- ・3Dプリンターを用いた浮体模型の製作および水槽実験＋数値計算による挙動推定

●着手条件

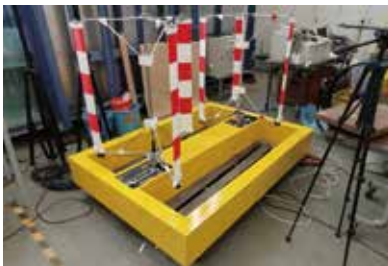
建築人材として海洋工学的な問題・課題解決に携わりたいと強く思えること、またそのための気力と体力のある学生を求めています。大学院への進学希望者を歓迎します。浮体式構造物を利用した海洋空間利用の提案と研究に興味がある、世界の中でこの分野に関わりたいなどの学生を歓迎。研究室での説明・相談を随時受け付けます。



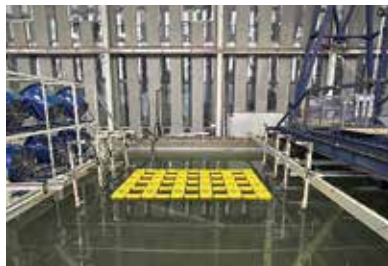
振動水柱型波力発電装置の開発



浮体式可変ピッチ VAMT の開発と実海域実験



浮体式ツイン垂直軸型風車の開発



浮体式太陽光発電や海上都市計画に応用される浮体技術研究



垂直軸水車の流体力特性の水槽実験

海洋構造デザイン研究室

1345 室



研究室の学生達と行った夏合宿
(千葉県 安房鴨川)

Teaching Staff



教授
恵藤 浩朗

●研究室紹介

『海の"チカラ"で未来をもっと素敵にする』を合言葉に、海洋建築物の新しい可能性を切り拓いています。波、風、構造物が生み出すダイナミクスを理解し、安全で魅力的な海洋空間をデザインするため、日々、設計に結びつく様々な解析に取り組んでいます。アイデアを出し、試し、改善しながら形にする"デザイン思考"を実践し、仲間と一緒に成長できる環境です。海が好き、ものづくりが好き、新しい挑戦が好き—そんな君達と一緒に、未来の海を創っていきたくと考えています！

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海の作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。またテーマにより企業との共同研究もあります。

- ①新しいコンセプトを持つ海洋建築物の提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- ②係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の波浪中応答解析や構造解析による各種性能評価
- ③浮体式洋上風力発電施設に作用する風荷重解析と風や波、

潮流などによる運動
応答評価

- ④ハイブリッドケーソン (HBC) 式防波堤のフーチングに作用する圧力評価と HBC 設計法の確立
- ⑤粒子法による圧縮空気による影響も考慮したジャケット式栈橋に作用する揚圧力評価と構造設計
- ⑥没水平板による波高増幅効果に関する研究 など

●ゼミナールのテーマ

卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ、海洋や建築物についての実践的なスキルを身につけられます。

- ①海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- ②PCスキル (レポート作成、プレゼンテーション、CADモデリング、AI活用法など) を鍛えます
- ③プログラミングを基礎から学び、簡単な構造解析プログラムを作成できる技術を身につけられます
- ④技術士補を目指した資格対策講座も行っています

●着手条件

海洋建築物の構造や利用方法に興味があれば、着手条件は特にありません。研究室説明会に必ず出席して、個別面談 (教員や所属学生との雑談) を受けて下さい。必要な知識やスキルは研究室所属後に学びますので、履修科目についても特に条件はありません。大学院進学については、個別面談の際にじっくり話しましょう。興味のある方は、積極的に研究室へ来てください！

最新情報は
こちら



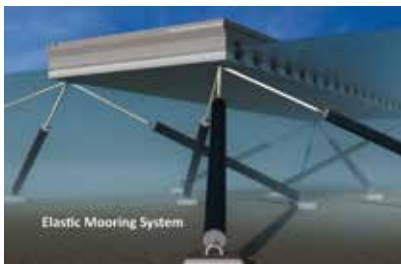
Web



Instagram



Facebook



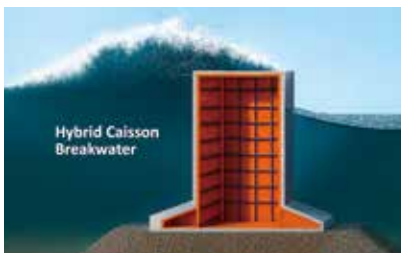
弾性係留システムにより係留された
浮体構造物の設計



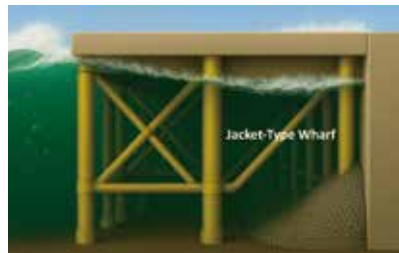
ブイやウエイトを付加した合理的な
カテナリー係留設計



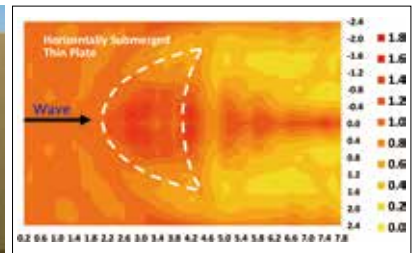
洋上風力発電に作用する風荷重解析や
浮体の動揺問題



ハイブリッドケーソンの波圧解析と
合理的な断面設計



ジャケット式栈橋に作用する圧縮空気を含む
揚圧力解析



波力発電のための没水平板による
波高増幅効果の検討

海洋物理・計算工学研究室

1342 室

Teaching Staff



准教授
相田 康洋

●研究室紹介

当研究室は、波や流れが海洋建築物や海洋構造物にどのように影響を与えるかについて、数値流体力学（CFD）的手法を駆使して解き明かすことを主なテーマとした研究室です。波浪や津波によって構造物にどのような力が作用するのか、浮体構造物はどのように運動するのか、浮体構造物が建築物や構造物に衝突した際にどのような力が作用するのかなど、構造物とそれととりまく流体をコンピューター上で再現し、実験とも比較しながら振舞いを明らかにすることに取り組んでいます。また、日本の沿岸の波浪の性質や、長期的な波高の変動予測高波の発生メカニズムや、太平洋を伝播する津波の再現、さらに発展して津波避難経路を算出し避難中の津波遭遇を再現するシミュレーターの開発など、波や流れに関することなら全てが研究テーマです。

研究室の活動は、ゼミナール、卒業研究発表会、懇親会などを予定しています。

研究のキーワード 数値流体力学、流体解析、浮体挙動、津波防災・減災、強非線形海洋波

●ゼミナールのテーマ

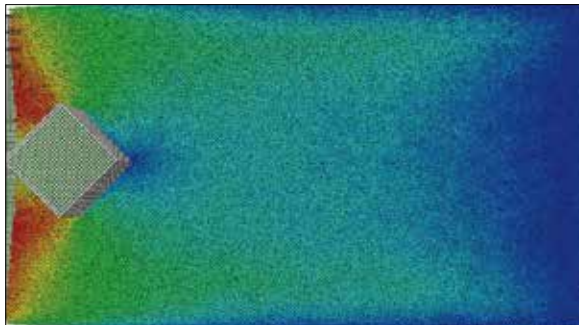
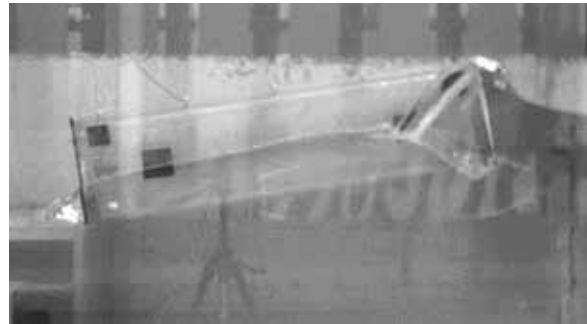
ゼミナールでは、卒業研究に必要な知識の基礎を演習形式で修得します。3年生の段階で、シミュレーションの基礎を演習と講義を通じて理解し扱えるようにするとともに、水槽実験の基礎や、水波工学の基礎から応用について修得していきます。

●卒業研究のテーマ

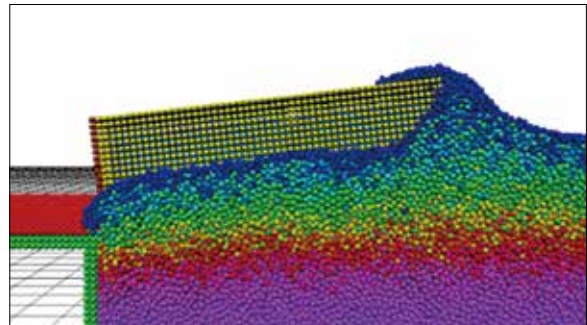
各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。また、取り組んでみたい研究テーマがあれば、相談可能です。

●着手条件

特に条件は設定しない。海洋の波や流れ、数値シミュレーションに興味のある学生を歓迎します。是非、研究室へ相談に来て下さい。



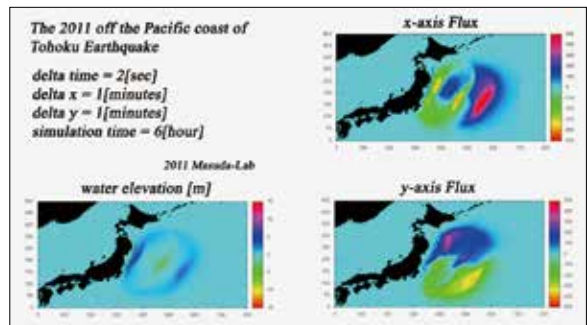
建築物周りの津波流れ場の再現シミュレーション



浮体式構造物の乗り上がりシミュレーション



日本に襲来した台風の経路ヒートマップ



東北地方太平洋沖地震津波の再現シミュレーション

構造工学研究室

1361 室



●研究室紹介

北嶋・扇谷研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。2026年4月からは、新たに扇谷准教授が加わり、教員2名体制で取り組みます。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた"建築構造システム"および"建築構造部材の構造性能"に関する実験的研究が多いことです。また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピュータによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。今後は、風洞実験も実施する予定です。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート(RC)造建物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷評価のための構造ヘルスマニタリングシステムに関する研究・開発
- 1-2 複数回の大地震動を想定した耐震設計法に関する研究 etc.

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発 (写真1)
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究 (写真2)
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究 etc.

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 津波避難ビルの構造性能に関する研究
- 3-3 沿岸域の建物の耐風性能に関する研究 etc.

4. その他、企業からの受託研究など

これらのテーマについて、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、夏合宿(写真3)では、自分たちが興味や疑問に思っていることを実験で確かめるための「ゼミ実験」のテーマを提案してもらいます。実験は秋の桜理祭にて公開します。

●着手条件

構造に興味があり探究心旺盛で、研究に関する労力を惜しまない人を歓迎します。



写真1 次世代制震構造システムの実験

写真2 滑り基礎構造建物の振動台実験



写真3 夏合宿の集合写真

新任教員紹介

専門分野：振動工学、風工学、構造解析、建築物のモニタリングおよび損傷評価

略歴：2007年3月 日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻 修了

2007年4月 株式会社長谷工コーポレーション 入社
同 技術研究所 配属

2020年3月 日本大学より博士(工学)の学位を授与
2026年4月 日本大学 着任

主な研究テーマ：超高層免震建物の耐風性能、建物の振動性状、超高層建物の居住性能、建物の地震および風応答、ビル風等の風環境、外装材の風荷重、建物の強震観測など

准教授 扇谷 匠己 (おうぎや・なるみ)

大学在学時に受講した振動工学を通じて、建物が地震時や強風時に如何にして揺れるのかということに興味をもち研究者の道を目指しました。長谷工コーポレーション技術研究所では振動工学・風工学・構造解析を専門とし、建物の地震・風応答や振動特性、外装材の風荷重、強震観測および損傷評価等、建物の安全性と性能向上に関わる研究を行いました。大地震に対して建物がどのように振動するのかを明らかにすることは、建物の損傷低減に大きく寄与します。また、近年では建物の超高層化が進んでおり、今後の構造設計では風応答の重要性がさらに高まると考えられます。建物がどのように振動するのかに興味がある人は、ぜひ研究室に来てください。

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff



教授
福井 剛

●研究室紹介

< 研究のこと >

私たちの研究室では、建築構造及び材料Ⅱで学んだプレストレストコンクリート（以下 PC）構造の設計法を開発しています。PC 構造は、①耐久性が極めて高く、②大スパン構造を作ることができ、③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱などの飛び抜けた高性能が要求される構造体や、オリンピック競技施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。

< 研究室の雰囲気 >

私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠で、研究室では教員と学生がお互いにフランクに議論し合える場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

< 年間行事 >

①顔合わせ会：全員で親睦会。②夏合宿研究発表会：中間研究成果発表会です。発表終了後は無礼講タイム。③実験打上げ：無事故と研究成果を祝うための行事。④ほか：めでたいことがあれば適宜。

●ゼミナールのテーマ

卒研をスムーズに始める準備をします。以下のテーマから2つ以上を選択。①コンピュータープログラミングによる構造計算トレーニング ②構造力学およびコンクリート構造の勉強会 ③コンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得の修得

●卒業研究のテーマ

① PC 部材のせん断抵抗機構
② 長期荷重が PC 造建物の地震後の性能に及ぼす影響
③ 部分アンボンド PCaPC 梁の実用化
④ 環境配慮型コンクリート材料の開発
テーマにより実験、解析または両方のアプローチで研究を進めます。

●着条件

研究室訪問をすること。研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために院生や教員と話をしましょう。配属後は、ゼミを決して欠席しない、卒研に没頭する、チームワークを乱さない、ことを約束できること。



研究室夏合宿（軽井沢セミナーハウス）



研究室 OBOG との懇親 BBQ（豊洲ぐるり公園）



RC 部材のせん断実験（大型構造物試験棟）

建築構法研究室

1346 室

Teaching Staff



教授
高橋 孝二

● 研究室紹介

日本国内で震度 7 を記録した大地震（阪神淡路大震災、東日本大震災など）が、この 30 年で実に 7 回も発生しています。まさに本国は地震活動期の真っ只中にあります。また、ここ最近では地球温暖化の影響とされる想定を遥かに超えた風雨により、数多くの災害が発生しています。これら自然災害に対する防災・減災技術への貢献は、海洋建築工学科の大きな使命の一つであります。

本研究室では、「地震に強い建築」を目的に、主に耐震構造としての要求性能が高い超高層建築物や大規模な空間構造に関する研究を行っています。さらに、研究室では木質構造も取り上げています。近年、国内の森林資源の有効活用や持続可能な開発目標（SDGs）への対応として中大規模木造建築物への期待が高まっていることから、木造建築の高層化実現のための研究に取り組んでいます。

● ゼミナールの内容

3 年生で履修する「構造解析」や「振動工学」の知識をさらに深めてもらうため、平面フレームの構造解析や質点系の時刻歴

応答解析の簡単なプログラミングを実施します。自分で実際にプログラムをすることにより、理解が深まり卒論や修論の研究にも役立ちます。また、自分が取り組む卒論テーマの基礎知識を身に付けるために、専門書を読み合わせる等の学修を中心に行います。夏には、合宿にて卒研生の中間発表やゼミ生の課題発表（自分がやってみたい構造実験）を行っています。（写真 1）

● 卒業研究のテーマ

卒業研究では、以下のような構造に関するテーマに取り組んでいます。建築構造に関わるテーマなら学生自身で選定しても構いません。

① 鉄筋コンクリート構造

- ・部材の構造性能（写真 2）や超高層の耐震設計に関わる課題を対象
- ・超高層プレキャスト工法に関する研究（写真 3）

② 空間構造

- ・スタジアムに代表されるキャンチレバー屋根の地震時応答性状に関する研究（図 1、図 2）

③ 木質構造

- ・多層木質純ラーメン構造の研究（写真 4）
- ・伝統木造建築の耐震性能に関する研究

④ 杭基礎の動的挙動に関する研究（写真 5）

● 着手条件

1 年生、2 年生で学んだ構造力学の授業や実験が「おもしろいな」と思った学生なら問題ありません。将来、構造に関わる仕事（構造設計や研究開発）や施工管理を目指そうと思っている学生を歓迎します。



写真 1 夏合宿



写真 2 RC 造袖壁付き柱の構造実験



写真 3 プレキャスト工法

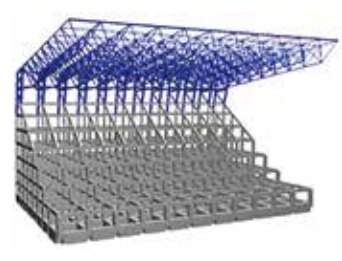


図 1 スタジアムの詳細解析モデル



写真 4 木造新構法の梁の実験状況

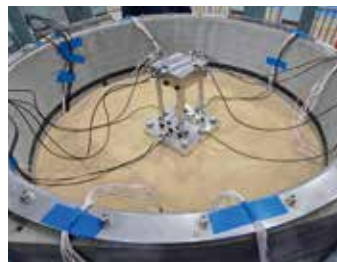


写真 5 杭基礎模型の実験状況



図 2 スタジアムの全体解析モデル

沿岸環境防災研究室

1335 室

Teaching Staff

教授
星上 幸良助教
寺口 敬秀

●研究室紹介

本研究室は、環境系と計画系両方を学ぶことができます。環境系では「沿岸域の防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人とのかかわりについて考究することを目的としています。

計画系ではウォーターフロントの「快適利用」「景観デザイン」「開発と有効利用」「減災対策」を軸に、都市工学について考究していくことを目的としています。

どちらの分野も自然環境と人間社会との関わりを軸に「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することから始めます。さらに、研究活動を通じて、卒業するまでに「時間の管理」「ニーズを掘り起こす能力」「問題解決能力」「プレゼンテーション力」などを養い、実社会で活躍できる人材育成を行います。

●ゼミナール活動

前期は座学やフィールドワークを中心に、研究活動を行うための基礎的な知識やスキルを学ぶとともに、就職に向けた準備を行います。夏休み以降は引き続きフィールドワークや先輩学生らの研究調査、被災地復興視察、防災さんぽ等に参加し、現場の見方や環境問題を学びます。また、ゼミナール研究論文を作成し、成果は学会で発表することもできます。ゼミ・卒研共に研究テーマは学生自身で企画、実行してもらいます。過去の卒業生の数だけテーマがあるので、研究のバリエーションの豊富さも本研究室の特徴です。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」を見てください。

●過去の卒業研究論文テーマ例

- ①良好な環境の保全：海岸侵食対策・UAV 計測技術・ブルーカーボン・漂着ゴミ等
- ②安心安全な沿岸域の創造：複合災害のリスク分析・津波避難計画・高潮対策・住民合意形成等
- ③ウォーターフロント開発と有効利用
 - ・漁港や港湾を活用した沿岸部の地域振興方策
 - ・海・河川・湖沼における水面利用の法整備
 - ・浮体施設の建造に伴う法規制の研究
 - ・SNS 投稿内容からみた観光客の興味対象の分析
- ④ウォーターフロントの景観計画デザイン、減災対策
 - ・津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度内容
 - ・海水浴場などマリナー施設の津波避難計画
 - ・港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策

※研究室に過去のリストがあるのでぜひ見てください

●着手条件

沿岸の環境保全や防災、ウォーターフロントの都市工学に興味のある学生、将来、公務員や建設コンサルタント、都市開発などへの就職を志望する学生、技術士取得を希望する学生、海や沿岸、ウォーターフロントに"愛"のある学生はぜひ来てください。研究活動では自分の目で見て感じたことや興味・疑問を持ったことからテーマを決めるので、本研究室のフィールドに興味があり、現地に出向くことや体験することが好きな人が好ましいです。

なお、研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。興味を持ったらまずは教員や研究室の学生に話を聞いてみてください！



フィールドワークの様子



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研 youtube
チャンネルは
こちら！



ゼミ発表会の様子

海洋環境情報研究室

1334 室

Teaching Staff



准教授
吉田 毅郎

● 研究室紹介

当研究室では、環境に調和した海洋利用に関する研究を行うことで、海との共存共栄を目指します。環境に配慮した海洋構造物を用いることで、持続可能な社会の実現に貢献することができます。海域利活用や沿岸域開発の際に必要な「環境」を研究のターゲットにしています。環境影響を把握するための調査や解析について研究を行います。その中で、手法としては AI・データサイエンスなどの技術も取り入れていきます。また、他機関とも積極的に連携をとりながら研究を行います。

● セミナールのテーマ

1. 海洋構造物の環境影響

海洋再生可能エネルギー装置の環境影響に関する基礎として、海洋構造物周辺における海生生物のモニタリング、附着生物や海藻類の解析などを行います。水中ドローンや水中カメラを用いた観測を行います。

2. 海域環境の調査・解析

航空機やドローン等を用いて海洋構造物周辺などの広域な調査解析を行います。航空写真やレーザーのデータを解析することで、海域における生物の検出や波浪など物理現象の観測を行います。

3. 沿岸域の環境改善

港湾内や沿岸域の養殖場周辺の調査および環境改善に向けた取り組み、湾内の環境を模擬した数値シミュレーションなどを行います。沿岸域において海藻類によるブルーカーボンに関する研究も行います。

4. 海洋環境に関する AI・データサイエンスの応用

データや画像の解析に加えて、生成 AI の活用も推進しています。社会適応性の検討や時系列データの予測なども行います。

● セミナールのテーマ

- ・海洋環境のモニタリング手法や基本的なデータ処理方法を習得します。
- ・水中カメラや水中ドローンで得られた水中画像、航空機やドローンで得られた航空写真に対する判読方法を習得します。
- ・データサイエンスに関する基礎知識や Python を用いたプログラミング、生成 AI の効果的な利用法を習得します。
- ・各自の興味に沿った研究テーマに関する動向や新しい技術を調査します。
- ・研究室内だけでなく他機関の専門家を交えた成果発表やディスカッションの場を通じて、自らの意見を伝えるためのプレゼンテーション能力を養います。
- ・他者の意見を理解するために必要なコミュニケーション

能力と柔軟性を養います。

- ・ 星上研究室と合同ゼミのフィールドワークを通じて、実際の環境調査を体験します。

● 2025 年度のゼミナール研究テーマ

- ・ 航空写真とレーザーによる海域環境解析
- ・ 附着生物の画像解析
- ・ クラゲの画像解析
- ・ 海藻類のモニタリング実験と解析
- ・ 漂流物の解析

● 2026 年度のゼミナール研究テーマ

今年度に募集予定のゼミナール研究テーマ案は以下の通りです。この他にも各自の興味に沿ってテーマを考えていきます。

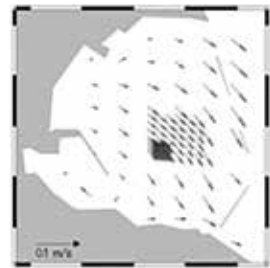
- ・ 航空写真とレーザーによる海生生物検出と波浪観測
- ・ カルエボシの画像解析
- ・ 養殖場周辺のモニタリングと環境改善
- ・ 閉鎖湾の環境シミュレーション
- ・ ブルーカーボン
- ・ 架橋浮体の最適配備
- ・ 防災ジレンマ問題に対する AI の社会適応性検証

● 着手条件

環境に調和した海洋利用、海域のモニタリング、AI・データサイエンスなどに興味がある学生を歓迎しますので、相談に来てください。



構造物周辺の魚類



数値シミュレーション



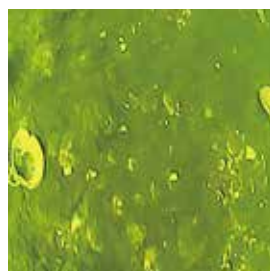
養殖場の堆積物



画像処理されたナマコ



調査の様子



調査海域の海底

博士論文



修士論文



卒業論文・卒業設計

佐藤研究室

修士論文

- ◆法橋礼歩 水循環パネルを用いた移動可能な最小限空間の室内温熱環境の性能評価
- ◆浅井駿来 水素燃料高高度気球発射拠点の提案
—秋田県能代市における商業宇宙港の設計—
- ◆荒木陽成 伝統的木造建築のレーザーキャンによる空間把握に関する研究
—千葉県香取神宮の旧拝殿と勅使門を対象とした調査—
- ◆熊本一希 防波堤の建築空間化の提案
—高知市におけるクルーズ船ターミナル機能を有した施設の設計—
- ◆佐村拓郎 山下埠頭における防災機能を備えた都市リゾートの提案
—次世代モビリティを活用した「緑と海辺のまち」計画—
- ◆鈴木 暖 大洗港区における国際客船ターミナルとアリーナの複合拠点の設計
—港湾の通年利用を目的とした提案—
- ◆富永玲央 首都圏空港の再編に向けた新空港の提案
—MICE 施設を併設した海上空港の設計—
- ◆樋口大雅 橋梁と一体化した滞在・研究機能を備えた複合施設の設計
—東京湾口道路による交通ネットワーク拡張の提案—
- ◆山口直也 e スポーツ複合施設の設計
—山下埠頭における新たなエンターテインメント施設の提案—

卒業論文

- ◆菅原大輝 基隆市の諸問題と未来の基隆を作る建築
- ◆有本百花 島嶼に建つ軌道の断片
—現地資源を用いた青ヶ島の変型宇宙港の提案—
- ◆大野紗矢香 岩瀬から広がる「輪・環・圏」
—自転車起点とした都市のかたち—
- ◆川村吉平 ここに地終わり 海始まる
—見えぬ土木を可視化する、新しい治水インフラのかたち—
- ◆酒井 優 水守りの曲輪
—防御の痕跡を転換し濠の手入れに参加する—
- ◆畑口優太 旧汀線に積む。
—かつてを共にした水と営みのあいだで—
- ◆星野輝太 避難という旅路
—上中里二丁目における日常動線と避難動線を重ねる回廊型空間の提案—
- ◆小澤知華子 Asile Flottant 2.0
- ◆磯部莉緒 祭礼のあとで
—八日市場本町通り商店街に残された時間—
- ◆鈴木美咲 通り過ぎていた水
—土浦の水運構造を体験化する建築—
- ◆田永愛夏 国境空間の再定義
—在差異中建立关系的城市—
- ◆依田澄生 日常と非常をつなぐ、空の導廊
—駅前避難困難区域の新しい再開発の形—

山本研究室

卒業論文

- ◆市川和生 造船・船舶修繕に関わる事業者における事業継続計画 (BCP) に関する調査研究
—南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として—
- ◆小林竜也 石組み防波堤の実態把握及び保全・活用に関する調査研究
- ◆山田海月 南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における津波フラッグの周知拡大に関する調査研究
- ◆米村爽汰 沿岸漁業における海女漁の現状とその存続に関する調査研究

長谷川研究室

修士論文

- ◆金指 遥 バイオメテイクスの建築事例分析とそれを応用した建築提案
- ◆門谷采実 温泉熱と景観資源を軸とした温泉街の再編に関する建築提案
- ◆金井和奏 フィリピン マニラの貧困地域におけるセルフビルド建築の提案
- ◆佐藤航太 海抜0メートル地帯に位置する東京都葛飾区庁舎の建て替えに伴う新庁舎の提案
- ◆中島啓太 坂梨の宿場町再興
—デジタルファブリケーションを活用した空き家再生—
- ◆中村光佑 脱炭素社会の実現に向けた高層住宅の緑化モデルケースの提案
- ◆八阪柊吾 行徳地区における鉄道高架を活用した防災拠点型駅舎の設計
—医療・福祉・保育機能を備えた複合駅舎の提案—

卒業論文

- ◆秋山慎之介 書美の表象
—書家井上有一の〈書く思想〉を内包する書道美術館—
- ◆糸魚川颯大 折間構想
—折りによる空間生成の設計手法—

◆江口和李

新・伊東の歩き方物語

◆片岡梨美

—伊東市(新井~湯川間)におけるエリアリノベーション計画—
公海上小型原子力発電所計画
—咸臨平頂火山における複合型プラットホームの提案—

◆川神爽来

生態廻帰
—環境のゆらぎと共振する水族館—

◆藤井光稀

不易なる祇園、伝承の不朽
—地域文化を発信する拠点のしらべ—

◆増淵 慈

日本橋遺産
ハレとケをつなぐ都市のパツファ —日本橋におけるスカイラインの再解釈—

◆宮田正博

都市の先祖返り
—ゲニウス・ロキの復讐曼荼羅による、人間中心主義の解体と再定義—

◆篠木孝平

薄れゆく記憶
—祖父との時間を更新し続ける装置—

◆田村萌依

己の行方
—大都市東京・新宿におけるフラヌールの現代的再解釈—

江川研究室

卒業論文

- ◆池田拓未 変化に寄り添う癒し
—地域包括ケアの構築に寄与する湯治施設の提案—
- ◆石井結葵子 商業施設等における一時帰宅困難者受け入れの整備状況に関する研究
- ◆石川大貴 屋外空間とその活用による高齢者の居場所としてのデイサービスセンターに関する研究
—高齢化社会におけるデイサービスセンターの新たな役割—
- ◆佐々木省太郎 病院の外来待合空間における患者のニーズを考慮した建築計画に関する研究
- ◆玉川将太 被災地における災害拠点病院の整備内容に関する調査研究
- ◆吉沢葉七 海辺環境を取り入れた病院の建築計画に関する研究
- ◆小沢政雪 東京都における避難場所および防災公園の課題に関する調査研究
—東京都における避難場所体系と防災公園の現状分析および改善方策—
- ◆横山晃己 図書館を介した高齢者と児童の居場所
—介護と児童施設を複合した交流の仕方の再定義—

海洋建築・建築デザイン研究室(菅原・小林)

修士論文

- ◆今市尚大 東北沿岸部における通い型漁業の実態と解決策に関する研究
- ◆川名神威 観光客の津波避難対策としての宿泊施設の活用に関する研究

卒業論文

- ◆長沼麟太郎 親水と浸水の両義的側面からみたみなとオアシス登録港の代表施設の整備実態
- ◆大野楓 みなと緑地 PPP 導入港湾における港湾緑地の立地特性の分類に関する研究
- ◆菅野皓太 沿岸地域における災害時協力井戸の実施状況と課題
- ◆嶋川隼央 みなとオアシス登録港における津波発生時の浸水・避難の実態に関する研究
- ◆福田恭香 埼玉県における自主防災組織による水害対策の実態に関する研究
- ◆松岡龍之介 東日本大震災以降における小・中学校の津波防災教育の継続状況とその要因
- ◆三田晴貴 東京都墨田区における雨水利用の動向と雨水タンクの設置実態に関する研究
- ◆矢木 結 都市部における水辺のマルシェの実態と効果に関する研究
- ◆和田武士 全国の津波避難タワーにおける日常利用の実態に関する研究

ウォーターフロント都市工学研究室(寺口)

修士論文

- ◆杉田祐将 海岸の多目的利用を促進するための空間整備と管理運営に関する研究
- ◆鈴木陽斗 クルーズ船がもたらすオーバーツーリズムの要因と対策に関する研究
—AI を援用した分析に基づく考察—

卒業論文

- ◆上田真菜美 津波避難における在留外国人への情報伝達に関する研究
—東日本大震災・能登半島地震津波被災地を対象とした調査—
- ◆高橋志温 大規模集客施設の混雑緩和に向けた水辺空間の利活用に関する研究
- ◆安里太希 海浜の維持管理に必要な料金徴収制度に関する研究
—沖縄県のリゾートホテルを対象とした調査—
- ◆安藤大智 持続可能な開発を目的とした浮体式海上都市計画に関する研究
—AI を援用した事例収集—
- ◆船見龍生 東京都の臨海4区における余白地の空間分布特性に関する研究
—GIS を用いた比較分析—
- ◆片山太一 隅田川親水テラスにおけるベンチの利用実態と水際環境との関係性に関する研究
- ◆加藤碧基 全国の水門・閘門の整備実態と市民開放の事例に関する研究
- ◆川畑俊介 津波避難ビルの利用制限の実態に関する研究
—南海トラフ地震の津波浸水想定区域を対象とした調査—
- ◆佐藤彼方 公園に整備される水空間の規模・形態等の変化に関する研究
—東京都の区立の都市公園を対象として—

- ◆野中奈桜 河川や水路の開渠化・二層化に関する研究
—20年間の変化—
- ◆野呂ひなた 海辺の立地特性を活かした水族館のあり方に関する研究
- ◆阿部和真 要配慮者利用施設における津波避難の実態と課題に関する研究
—静岡県沿岸部を対象とした調査—

居駒研究室

修士論文

- ◆常 睿速 プロジェクティング・ウォール付振動水柱型波力発電装置の数値モデリングとスケール効果に関する研究
- ◆千田悠斗 浮体式可変ピッチ垂直軸型風車の風・波中における連成運動応答解析ソールの開発

卒業論文

- ◆本庄空蒼 海洋建築工学水槽の送風装置による風波特性に関する実験的研究
- ◆枝 昂汰 オリフィス比の異なる振動水柱型波力発電装置の空気室特性における縮尺影響に関する実験的研究
- ◆鈴木道人 可変式垂直軸型風車の最大ピッチ角が現れるアジマス角がパワー係数に与える影響に関する基礎的研究
- ◆高橋乙斗 一様流中で回転する円柱の流場に及ぼす表面軸方向溝及び直径の影響に関する実験的研究
- ◆高橋来暲 ムーンブル内水塊の共振と波強制力に関する実験的研究
- ◆陶思寧・李エン 浮体式 PW-OWC 型波力発電装置のオリフィス比が運動特性と一次変換特性に与える影響に関する実験的研究
- ◆富田隼登 ムーンブル付きバージ型連結浮体の固有振動特性に関する基礎的研究
- ◆中村 将 一様流中で回転する円柱に作用する流体力に及ぼす表面軸方向溝及び直径の影響に関する実験的研究
- ◆榎田莉子 コンクリート製セミサブ型浮体のラディエーション流体力に関する実験的研究
- ◆平野夏海 浮体式洋上風力発電機ブレードの設置及び整備に使われる浮遊式クレーン船に関する研究
- ◆本間慎梧 コンクリート浮体を想定したセミサブ型浮体の規則波中の運動応答に関する基礎的研究
- ◆劉 一斬 ムーンブル付きバージ型浮体への振動水柱型波力発電装置の搭載によるハイブリッドシステムに関する基礎的研究

恵藤研究室

修士論文

- ◆鈴木 涉 弾性係留索により係留された浮体の不規則波中の運動応答特性の把握
- ◆寺田拓海 ハイブリッドケーソン式防波堤に作用する波圧の特性評価

卒業論文

- ◆小澤瞬・高橋カノン 浅海域におけるブイ・ウエイト併用カテナリ係留の性能評価に関する研究
- ◆清水朝貴・光村美南 ジャケット式栈橋床版に作用する圧縮空気と波による揚圧力の評価
- ◆市川温基・木村将崇 不規則波浪場におけるハイブリッドケーソン式防波堤の SPH 法による波圧特性
- ◆上原鷹宗・中島裕也 交差軸型風車の起動特性におけるパラメトリックスタディ
- ◆大内南沙・大嶋瑠美 scFLOW を用いた気波二相流解析における浮体構造物の運動応答特性
- ◆木村周平・玉沖竜晟 数値波動水路プログラムによる実海域規模のハイブリッドケーソンに作用する波圧特性の評価
- ◆関根彰良・土上湧生 弾性係留システムの諸元変化に伴う運動応答関数の特性評価
- ◆横川健悠 SPH 法による円筒タンクのスロッシング挙動と弾性振動モード解析

相田研究室

卒業論文

- ◆江崎陽翔 AIS データを用いた港湾統計予測システムの構築と米国関税による自動車輸出の調査に関する基礎的研究
- ◆大口遙介・上村明日香 人口衛星データを用いた日本列島太平洋側の長周期波の波浪観測に関する基礎的研究
- ◆小沼真拓 MPS 法を用いた津波来襲時の自動係留装置に係留された船体揺動解析に関する研究
- ◆佐藤碧斗・東浦凌雅・丸山隼人 港湾及び背後地域における津波避難シミュレーションシステムの大規模データベース化に向けた基礎的研究
- ◆谷崎碧・中谷千結 安価な波浪観測ブイの開発・製作のための MEMS 加速度センサの性能調査に関する研究

北嶋研究室

修士論文

- ◆岸本大誠 新耐震設計法で設計された RC 造建物の耐震性能評価法に関する研究
- ◆谷内颯真 地震動を受ける滑り基礎構造建物の応答評価法に関する研究
- ◆塚田 馨 中鋼管降伏タイプの長尺折返しプレースの構造特性に関する研究

- ◆永吉琉莞 津波波圧を受ける RC 造外壁の崩壊メカニズムと限界波圧の算定
- ◆吉野 竣 損傷評価のための構造モニタリングシステムに関する研究
—1 台の加速度計による建物の全体変形角の算出—
- ◆吉原 楽 多層木造建物に適用する次世代制震構造システムの有効性に関する研究

卒業論文

- ◆石本 匠 水中振動台の製作と利活用
—水中振動台を用いた固定式海洋構造物の一方向振動実験—
- ◆浦野深型 滑り基礎構造建物に生じる最大滑り変位と残留滑り変位に関する研究
- ◆椎野芽生・羽田鴻 多層木造建物に適用する次世代制震構造システムの有効性に関する研究
—柱脚接合部と木質連層耐震壁脚部の回転摩擦ダンパーの要素実験—
- ◆中山留伽 円形鋼管を用いた中鋼管降伏タイプの折返しプレースの構造特性に関する実験的研究
- ◆原田亮太郎 セットバックを有する板状 RC 造集合住宅の損傷評価に関する研究
- ◆松山直樹 マルチデンプルを有する滑り基礎構造のデンプル形状および深さと滑り挙動の関係
- ◆青木和洋 間柱型ダンパーの配置箇所が降伏変位に及ぼす影響に関する研究

福井研究室

卒業論文

- ◆石井平大・萩原野乃華・谷澤和希・吉田祐城・吉野由人 RC 部材のせん断伝達機構に関する実験的研究
- ◆伊藤翼杜・小宮侑士・増田迅人 RC 部材および PC 部材の終局耐力の統一した評価を行う機械学習モデルの構築
- ◆井上聡太・佐藤光・高橋凌太 RC 部材のせん断伝達機構に関する解析的研究
- ◆齋藤亮太・橋本俊里 環境配慮型コンクリートを用いた PC 梁の長期曲げ性状に関する実験的研究
- ◆高橋央輝・萬谷桃香・森祐太 部分アンボンド PCaPC 梁の曲げ挙動に関する解析的研究
- ◆中尾有貴・中條智洋・村上岳・浦邊拓哉 部分アンボンド PCaPC 梁の地震後の常時性能に関する実験の予備解析

高橋研究室

修士論文

- ◆尾崎太亮 壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱を組み込んだ架構の力学性状と設計法に関する研究

卒業論文

- ◆青木涼太・奥田光祐 超高層建物のねじれ応答性状に関する研究
—地震動斜め方向入力時を対象とした検討—
- ◆小倉啓隆・高壽陽向 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱針接合システムに用いる靱性型 GIR 接合の構造性能に関する実験的研究
- ◆金杉茜里 壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の部分架構に関する解析的研究
- ◆齋藤和也 立体モデルによる懸造が上部構造の地震時応答に及ぼす影響に関する解析的研究
- ◆佐藤栄香 木造平面混構造建物の構造的な特性に関する解析的研究
- ◆庄司心春・田中俊輔 GIR 接合を用いた大壁仕様 CLT 耐力壁の構造性能に関する研究
—一枚材・CLT 接合部のせん断加力実験—
- ◆関谷玲菜・廣井大希 杭頭部に損傷を有する杭基礎構造物の模型振動台実験
- ◆林野ゆり奈 水平・鉛直振動を考慮した片持ち屋根の地震応答に関する研究
—一回転剛性と片持ち屋根の張り出し長さが推定式に与える影響について—
- ◆宮本 拓 スタジアム屋根の形状が地震応答性状に与える影響に関する研究

星上研究室

修士論文

- ◆石橋遼祐 東日本大震災の津波被災地域における復興事業の評価手法の検討
—生活復興感とマクロ経済指数を指標として—
- ◆清水 翼 実測値に基づくバーとトラフの形成を考慮した海浜変形予測モデルの構築
- ◆船木陽翔 潮汐と波浪により異なる地形形成条件を有する干潟面と前浜の 3 次元地形予測に対する BG モデルの応用

卒業論文

- ◆石坂凜・岡城正純・川村啓大 津波災害時における避難経路上の複合リスク可視化に関する研究
- ◆鈴木 亨 東京湾奥部におけるコンブ育成適地選定の調査手法の検討
- ◆酒井廉斗 家屋倒壊に伴う避難路の通行可否に関する研究
- ◆佐藤稜輔 津波高が地域産業に与えた影響に関する研究
- ◆藤崎稀央 千葉県九十九里沿岸の地盤沈下の面的分布に関する研究
- ◆松本悠生 菱沼海岸地区・辻堂地区における飛砂堆積の実態調査
- ◆西宮 諒 2 つの島間に形成される陸架礫砂州の形成に関する研究
- ◆森田 陸 従来の海浜変形予測モデルの予測精度の整合性の検証
- ◆安達大樹 教員免許教職課程における防災教育の実施状況に関する研究

佐藤研究室

審査付論文

- ◆ Shinji Sato and Koki Kobayashi, Proposal for a Complex Research Facility for the Preservation and Utilization of Underwater Ruins, The International Conference on the 5th World Conference on Floating Solutions (WCFS2025), Helsinki, Finland, 1-3 September 2025, The Conference Proceedings International Society 2025, pp.636-641,

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 若松瑠苒・佐藤信治 / 船橋水景を宿す / 巻 号:2025 [建築デザイン] [学術講演梗概集] ページ: 136-137 / 年月次: 2025-9.
- ◆ 五十嵐功・佐藤信治 / 佃の再興 / 巻 号: 2025 [建築デザイン] [学術講演梗概集] ページ: 146-147 / 年月次: 2025-9.
- ◆ 小林弘真・佐藤信治 / 幕張の軌跡 / 巻 号: 2025 [建築デザイン] [学術講演梗概集] ページ: 130-131 / 年月次: 2025-9.
- ◆ 姫野由衣・佐藤信治 / 速度のもやい / 速度的手法を用いた都市の交通結節点の提案: 2025 / 巻 号: 2025 [建築デザイン] [学術講演梗概集] ページ: 156-157 / 年月次: 2025-9.
- ◆ I-27 防潮堤の建築化に関する研究—高知市における防災と産業を両立したターミナルの設計—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇熊本一希 (日大理工・院 (前)・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-28 大洗港区と町の接続強化の提案—大洗港客船対応フェリーターミナルの設計—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇鈴木 暖 (日大理工・院 (前)・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-29 e スポーツ複合施設の設計—未成熟市場における拠点の提案—〇山口直也 (日大理工・院 (前)・海建)・佐藤信治 (日大理工・教員・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-30 首都圏における杭式浮体式ハイブリッド構造を用いた海上空港の提案 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇富永玲央 (日大理工・院 (前)・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-31 水素燃料高高度気球を用いた宇宙港の提案—秋田県能代市における商業宇宙港の設計—〇浅井駿来 (日大理工・院 (前)・海建)・佐藤信治 (日大理工・教員・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-32 歴史的建造物のデジタルツイン化計画への提案 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇荒木陽哉 (日大理工・院 (前)・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-33 横浜市山下ふ頭における統合型リゾート計画—「緑と海辺のまち」を目指す横浜での先行施設の提案—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇佐村拓郎 (日大理工・院 (前)・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-49 国境空間の未来像—アムール川における建築計画を通じた共存の第一歩—
- ◆ 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇田永愛夏 (日大理工・学部・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ I-50 宇宙建築の再定義佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇牧野元汰 (日大理工・学部・海建) 第 69 回, 日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-18 巡回する最小限可変建築の設計と実証—軽トラック運搬・フロート化を兼ね備えた「前線の小さな拠点」—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・
- 〇法橋礼歩 (日大理工・院 (前)・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-19 東京湾口道路の構想の実用化に向けた計画と半島活性化を目的とした付帯施設の提案
- ◆ 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇樋口大雅 (日大理工・院 (前)・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-26 上中里二丁目における孤立都市下町の避難動線と日常回遊の統合計画—商店街・飲み屋街機能の再生を通じた地域活性化と防災の両立—
- ◆ 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇星野輝太 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-27 基隆市の諸問題と未来の基隆を作る建築
- ◆ 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇菅原大輝 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-28 浦安鉄鋼団地における産業博物館の提案—産業遺産の保存と地域活性化に向けた建築的提案—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇畑口優太 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-33 Asile Flottant 2.0—セーヌ川における物流・文化・防災を担う浮かぶ都市拠点—
- ◆ 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇小澤知華子 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-34 水辺がつなぐ城下町の記憶—失われた堀と水辺空間を活かした再生計画—〇鈴木美咲 (日大理工・学部・海建)・佐藤信治 (日大理工・教員・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-35 漁業の記憶を活かした水門一体型水上市場の提案 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇川村吉平 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-40 千葉県匝瑳市八日市場本町通り商店街における再創計画—空き店舗・空き地の活用による中心市街地再生—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇磯部莉緒 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-41 沖ノ島における浮体式ロケット発射拠点の提案 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇有本百花 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-46 記憶と誇りをつなぐ複合施設—富山競輪場再生計画—佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇大野紗矢香 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03
- ◆ J-47 境界から接続へ—皇居堀を事例とした歴史遺構と環境装置の統合的再生—
- ◆ 佐藤信治 (日大理工・教員・海建)・〇酒井 優 (日大理工・学部・海建) 海洋建築系部会 pp.481-482, 2025.12.03

著書・執筆等

- ◆ 編著者: 海洋建築デザイン教材研究会 著者: 佐藤信治、他 5 名と共著, 新訂増補第 4 版 空間デザインを学ぶ, 巖波堂出版, 2025.9.18

作品等

- ◆ 佐藤信治, 筒井紀博空間工房: 真鶴町 2025 再開発部 project 第一弾

所属学生の受賞等

- ◆ 若松瑠苒: 第 37 回千葉県建築学生賞 最優秀賞 / 特別審査員賞 主催: 千葉県建築学生賞協議会
- ◆ 渡辺徹: 設計展 FLAP 2025 金賞 主催: FLAP 実行委員会、協賛: コンキャリア他
- ◆ 渡辺徹: 建築新人戦 2025 8 選 主催: 建築新人戦 2025 実行委員会、協賛: 大和ハウス、総合資格学院他

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆渡辺徹：建築学縁祭 2025～Rookie 選～ 森田祥子賞 主催：建築学縁祭学生実行委員会、協賛：ボラス、誠賀建設他
- ◆小林弘真・五十嵐功・若松瑠苒（以上、日本大学大学院理工学研究科海洋建築専攻）：クレバリーホームのコンペ「スクラッチブリックタイルが創る、新たな木造住宅デザイン」優秀賞 タイトル「この家ちょっと気分屋なんです。」
- ◆酒井 優 / 浅井 駿来 / 富永 玲央 / 五十嵐 功 / 小林 弘真 / 有本 百花（日本大学 理工学部海洋建築工学科（酒井・有本）、日本大学大学院 理工学研究科海洋建築工学専攻（浅井・富永・五十嵐・小林））：第 13 回ヒューリック学生アイデアコンペ「新橋～シン・駅～」タイトル「Shimbashi Re:Charge Station」優秀賞（第 2 位）
- ◆渡辺徹*1 樋口大雅*2 小林弘真*2 大野紗矢香*1 依田澄生*1 石渡晴生*1（*1：日本大学、*2：日本大学大学院）、第 19 回 長谷工住まいのデザイン コンペティション「100 人の集落」、タイトル「にわとりよりどころ」優秀賞（第 2 位）

学外活動（講演・講義等）

- ◆佐藤信治：登録文化財の活用を考える 3、主催：愛知県登録有形文化財と秋田県登録有形文化財所有者の会の共同開催、強首温泉峯峰苑大広間、秋田県大仙市、20250309、
- ◆佐藤信治：秋田県における登録文化財の現状を考える見学会、主催：愛知県登録有形文化財と秋田県登録有形文化財所有者の会の共同開催、秋田県大仙市ほか、20250309～10、
- ◆佐藤信治：千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会 文化財見学会 実行委員 第 001 回「千葉の石 房州石 と 鈴木家住宅」主催千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会、千葉県千葉市、2025.09.28
- ◆佐藤信治：Urban Plan Institute Workshop 2025 Spring 実行委員、主催：Urban Plan Institute Japan, Waseda University Nishi-Waseda Campus, 2025.06.07
- ◆佐藤信治：Urban Plan Institute Workshop 2025 Winter 実行委員、主催：Urban Plan Institute Japan, Nihon University Ochanomizu Campus, 2025.12.06
- ◆佐藤信治：講演会 主催 青森県弘前市立第三中学校 テーマ「三中全会の職業人との出会い」東京タワー B1 大会議室 2025 年 5 月 15 日《ネットニュース記事》
- ◆「ナマケン」- 高校生から始める研究室探訪 掲載記事 (https://myfuna.net/archives/townnews/250717)
- ◆佐藤信治の記事 (https://note.com/preview/n5035bfdbf10b?prev_access_key=0baa581ea239020329d7a07c687dd06e)

学外活動（委員会活動等）

- ◆(財)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆(財)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(財)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(財)千葉県建築士会 景観整備機構委員 国登録有形文化財担当
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会 委員
- ◆秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆秋田産業サポータークラブ 地域連携観光ワーキング 主査
- ◆秋田産業サポータークラブ 秋田杉活用ワーキング 主査
- ◆(財)海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆秋田県 登録文化財所有者の会 幹事
- ◆千葉県国登録有形文化財建造物所有者の会 監事
- ◆Urban Plan Institute Workshop 2025 Committee member

研究助成・受託研究

- ◆佐藤信治：研究奨励寄付金、株式会社建築資料研究社、海洋建築のデザイン展開に関する研究
- ◆佐藤信治：研究奨励寄付金、株式会社総合資格 船橋校、大阪著名建築、万博パビリオンの調査

山本研究室

審査付論文

- ◆宮本将来、山本和清、寺崎悠登：沿岸集落における災害時の孤立化発生要因に関する調査研究、(一社)環境情報科学センター、環境情報科学学術研究論文集 39 (J-STAGE) 掲載予定、2025.11. 採択決定

口頭発表・ポスター発表

- ◆宮本将来、今井克久、山本和清：新規漁業就業者増加のための水産高校におけるインターンシップの活用に関する調査研究 - 全国の水産高校 46 校を対象として -、日本沿岸域学会令和 7 年度（2025 年度）全国大会（札幌）研究討論会、セッション 11-1（沿岸域利活用 (3)）、2025.7.
- ◆塩沢陸斗、山本和清：津波災害に対する登録有形文化財建造物の防災機能に関する研究、日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.47-48, 2025.9.
- ◆工藤和、山本和清：海事展示施設における入館者数の増加要因に関する調査研究、日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.56-56, 2025.9.
- ◆宮本将来、寺崎悠登、山本和清：能登半島の沿岸集落における災害時の孤立化発生要因に関する調査研究、日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.61-62, 2025.9.
- ◆宮本将来、西原秀稀、山本和清：沿岸域の高齢者福祉施設における外国人介護者に関する研究 - 神奈川県・静岡県・愛知県の高齢者施設を対象調査として -、日本福祉のまちづくり学会 第 28 回全国大会（小松）研究発表会、梗概集 pp.357-360, 2025.9.

- ◆宮本将来、山本和清、穴井悠士郎：閉鎖された海水浴場の跡地利用に関する調査研究、第 69 回日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会 pp.480-481, 2025.12.

所属学生の受賞等

- ◆宮本将来：日本沿岸域学会研究討論会 2025 優秀講演賞、日本沿岸域学会、2025.12.

学外活動（講演・講義等）

- ◆山本和清：能登半島沿岸集落における災害時の孤立化発生要因についての一考察 - 南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域への適用に関する検討 -、国際海洋建築シンポジウム（第 12 回海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム）、2025.9.

学外活動（委員会活動等）

- ◆(一社) 日本建築学会・代議員
- ◆(一社) 日本建築学会・海洋建築委員会 津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆千葉県館山市・たてやま海まちフェスタ 2025 実行委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会・監事
- ◆日本大学校門建築会・評議員
- ◆日本大学校門建築会・広報委員会 委員

教員研究業績 研究室活動業績

◆日本大学理工学部校友会・海洋建築部会 常任幹事

◆日本大学理工学部校友会・財務委員会 委員

長谷川研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆菊池康太, 長谷川洋平, 川越再群落化計画, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「他者の在る場」, pp. 170-171, 2025.9.
- ◆齋藤慶悟, 長谷川洋平, 転調する都市, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「都市再編」, pp. 195-196, 2025.9.
- ◆勝野琉生, 長谷川洋平, 国際団地, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「民主主義の実験場」, pp. 194-195, 2025.9.
- ◆薄井李空, 長谷川洋平, 在るものたち, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「設計方法」, pp. 200-201, 2025.9.
- ◆吉水理乃, 長谷川洋平, 人々のもたせ, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「ランドスケープ(1)」, pp. 198-199, 2025.9.
- ◆齋藤光, 長谷川洋平, 15.5, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「震災復興」, pp. 200-201, 2025.9.
- ◆小野田鼓, 長谷川洋平, AI される水端, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「生産施設」, pp. 197-198, 2025.9.
- ◆藤崎知輝, 伊豆原月絵, 藤井英, 岡庭拓也, 科学館における音環境の変容とその対応策: 来館者啓発を目的とした参加型ワークショップの実践と考察, 全日本博物館学会 2025 年度研究大会 要旨集, pp. 51-52, 2025.7.
- ◆佐藤航太, 長谷川洋平, 小林直明, 海拔 0 メートル地帯に位置する東京都葛飾区役所の建て替えに伴う新庁舎の提案, 令和 7 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-20, pp.498-499, 2025.12.
- ◆八阪柊吾, 長谷川洋平, 小林直明, 行徳地区における鉄道高架を活用した防災拠点の設計—医療・福祉・保育機能を備えた複合駅舎の提案—, 令和 7 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-21, pp.500-501, 2025.12.
- ◆金井和奏, 長谷川洋平, 小林直明, フィリピン の 貧 困 地 域 に お けるセルフレッド建築の提案, 令和 7 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-22, pp.502-503, 2025.12.
- ◆門谷采実, 長谷川洋平, 小林直明, 熱川温泉をモデルケースとした

温泉街再生提案, 令和 7 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-23, pp.504-505, 2025.12.

- ◆中島啓太, 長谷川洋平, 小林直明, 坂梨の宿場町再興—デジタルファブリケーションを活用した空き家再生—, 令和 7 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-24, pp.506-507, 2025.12.
- ◆中村光佑, 長谷川洋平, 小林直明, 高層建築物の住宅部分における緑化空間のモデルケースの提案—都市集住環境における緑の癒し効果を活かした居住空間の創造—, 令和 7 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-25, pp.508-509, 2025.12.

所属学生の受賞等

- ◆望月琢真, 100 選 建築学縁祭 2025 ~ Rookie 選~, 未来を育てる苗木—建築が風景に変わるまで—, 2025.9.
- ◆望月琢真, 40 選 設計展 Flap2025, 未来を育てる苗木—建築が風景に変わるまで—, 2025.9.
- ◆津田優陽, 100 選 建築学縁祭 2025 ~ Rookie 選~, 時の深海—音も時間も失われる水槽—, 2025.9.
- ◆水野隼斗, 100 選 建築学縁祭 2025 ~ Rookie 選~, バイオメガ, 2025.9.
- ◆滝藤一星, 100 選 建築学縁祭 2025 ~ Rookie 選~, 沈黙の水底—耳を澄まさずとも聞こえるもの—, 2025.9.
- ◆川神爽来, 江口和李, 横山晃己, 藤井光稀, 2025 年度支部共通事業 日本建築学会設計競技「佳作」「タジマ奨励賞」, 樹木荘・樹木創・樹木葬, 2025.9.
- ◆菊池康太, 優秀発表賞, 2025 年度日本建築学会大会(九州) 建築デザイン発表会 テーマ部門「他者の在る場」, 川越再群落化計画, 2025.9.
- ◆藤崎知輝, 白井元彬, 若野菜々子, 入選 グッドデザインニューホープ賞 2025 仕組みのデザイン部門, 扉をくぐるタネを育てる, 2025.12.

学外活動(委員会活動等)

- ◆日本建築学会第 26 期代議員

江川研究室

審査付論文

- ◆江川香奈, 木村敦: 高齢化社会における住宅地の空家の活用方法に関する基礎的調査研究, 第 43 回地域施設計画研究シンポジウム発表論文集, pp. 133-140, 2025.7.
- ◆江川香奈, 木村敦: 停電時の災害拠点病院における 画像診断系検査室の稼働可能状況と評価に関する考察, 日本臨床救急医学会雑誌 28 巻 4 号, pp. 696-702, 2025.8.
- ◆江川香奈, 木村敦: 災害拠点病院の傷病者受け入れ時に使用する諸室における災害医療に関わる医療関係者の建築設計の介入に関する調査研究, 日本災害医学会雑誌 第 30 巻 第 3 号, pp. 138-146, 2025.9.
- ◆高橋佑侍, 菅原遼, 江川香奈: 災害伝承施設の持続的な運営方策に関する研究, 日本建築学会技術報告集 第 31 巻 第 79 号, pp. 1461-1466, 2025.10.
- ◆江川香奈, 木村敦, 吉田雪乃, 岩城和哉: 高学年次の個人で取組む設計演習課題の実践と考察, 建築教育研究論文報告集 No.25, pp. 39-44, 2025.11.
- ◆江川香奈, 木村敦: 医療者の所望するスタッフスペースの建築・インテリ

アデザインに関する調査研究, 日本インテリア学会論文報告集 36 号, 2026.3.

- ◆江川香奈, 曾根里子, 木村敦: 大規模マンションの高齢者の交流を含めた利用を考慮した屋内外の共用施設の整備に関する事例研究, 日本インテリア学会論文報告集 36 号, 2026.3.

口頭発表・ポスター発表

- ◆Kana Egawa: Survey and research on room floor-assignment considering medical treatment both under normal circumstances and when accepting casualties during a disaster, 24th International Conference on Emergency Medicine, 2025.5.
- ◆江川香奈: 停電時の災害拠点病院の画像診断系検査室の稼働可能状況と評価に関する考察, 第 28 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2025.6.
- ◆江川香奈, 依田育士: 災害拠点病院のライフライン関連の対策状況に関する考察, 日本建築学会大会(九州) 学術講演会梗概集, pp. 839-840, 2025.9.

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆佐々木暁生, 高谷真実, 大内田史郎, 江川香奈: 国鉄の病院建築の変遷に関する研究 (その3) JR 東京総合病院現病棟の超高層化に向けた技術的課題と検討体制について, 日本建築学会大会 (九州) 学術講演会梗概集, pp. 427-428, 2025.9.
- ◆高谷真実, 佐々木暁生, 大内田史郎, 江川香奈: 国鉄の病院建築の変遷に関する研究 (その4) JR 東京総合病院現病棟の超高層化に向けて実施した火災実験について, 日本建築学会大会 (九州) 学術講演会梗概集, pp. 429-430, 2025.9.
- ◆江川香奈: 災害拠点病院の傷病者受け入れ時に使用可能な診療関連以外の空間の設置階に関する考察, 第53回日本救急医学会総会・学術集会, 2025.10.
- ◆江川香奈, 池田拓未: 温泉施設における建築・インテリアデザインに関する基礎的調査研究, 日本インテリア学会 第37回大会 研究発表梗概集, pp.31-32, 2025.11.
- ◆佐々木省太郎, 江川香奈: 病院の待合空間における建築, インテリアデザインの要素に関する基礎的調査研究, 日本インテリア学会 第37回大会 研究発表梗概集, pp.29-30, 2025.11.
- ◆池田拓未, 江川香奈: 少子高齢化の進む箱根町における、農業活動を取り入れた温泉地活性化プロジェクト, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp.450-451, 2025.12.
- ◆石井結葵子, 江川香奈: 商業施設における帰宅困難者の一時受け入れに関わる内容の整備状況に関する研究, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp. 447-448, 2025.12.
- ◆石川大貴, 江川香奈: 屋外空間とその活用による高齢者の居場所としてのデイサービスセンター 高齢化社会におけるデイサービスセンターの新たな役割, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp. 449-450, 2025.12.
- ◆小沢政雪, 江川香奈: 東京における防災公園の問題点とその解決策について, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp. 439-440, 2025.12.
- ◆玉川将太, 江川香奈: 被災地における災害拠点病院の整備内容に関する調査研究, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp. 445-446, 2025.12.
- ◆吉沢葉七, 江川香奈: 海辺環境を取り入れた病院の建築計画に関する研究, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp. 441-442, 2025.12.
- ◆横山晃己, 江川香奈: 図書館を介した高齢者と児童の居場所 介護と児童施設を複合した交流の仕方の再定義, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, pp. 443-444, 2025.12.

- ◆江川香奈: 災害拠点病院の搬送拠点活動に使用する諸室に関する調査研究, 第30回 日本災害医学会総会・学術集会, 2026.3.
- ◆森本真之助, 佐伯明子, 江川香奈, 野竹宏彰, 牧住敏幸, 角谷美帆, 寺本泰: 三重県紀宝町における産官学医連携推進事業「みんなであがく救護所研究会」設立の報告, 第30回 日本災害医学会総会・学術集会, 2026.3.

所属学生の受賞等

- ◆江口和李, 川神爽来, 藤井光稀, 横山晃己: タジマ奨励賞, 樹木荘・樹木創・樹木葬, 2025年度日本建築学会設計競技 『建築学』を可視化する一解体と循環の時代を切り拓け, 2025.9

学外活動 (講演・講義等)

- ◆江川香奈: 設計図を活用した災害時の医療救護所設営と実践的取組, 実践でつながる防災フォーラム 2025 ～避難所・救護所・災害拠点病院・地域医療連携の実践報告から「いつも」と「もしも」を統合的に考える～, 清水建設株式会社 NOVARE/ 技術研究所主催, 2025.12.

学外活動 (委員会活動等)

- ◆日本建築学会 協力委員会 委員
- ◆日本医療福祉建築協会 情報委員会 委員
- ◆日本インテリア学会 理事
- ◆日本インテリア学会 評議員
- ◆日本インテリア学会 総務委員会 委員
- ◆日本インテリア学会 関東支部 幹事
- ◆日本インテリア学会 教育部会 委員
- ◆日本インテリア学会 大会実行委員会
- ◆統合新病院新築基本設計業務に関する公募型プロポーザル (青森県) 審査員
- ◆第72回 日本大学全国高等学校 建築設計競技 審査員

研究助成・受託研究

- ◆江川香奈: 科学研究費・基盤研究 (C), 日常・非常事象内及び事象間における伸縮性を有する病院の建築計画に関する研究
- ◆江川香奈: 科学研究費・基盤研究 (C), 災害時に結節点となる他職種が共創する医療救護施設の建築計画に関する研究

海洋建築・建築デザイン研究室 (菅原・小林)

審査付論文

- ◆森田健太郎, 菅原遼: 港湾における鉄道廃線跡の土地利用の転換及び立地特性の実態, 沿岸域学会誌 第38巻 第3号, pp.29-36, 2025.12
- ◆菅原遼, 鈴木稷一: 北海道奥尻町青苗地区における地域住民の住環境評価に関する研究, 沿岸域学会誌 第38巻 第3号, pp.19-28, 2025.12
- ◆高橋佑侍, 菅原遼, 江川香奈: 災害伝承施設の持続的な運営方策に関する研究, 日本建築学会技術報告集 第31巻 第79号, pp.1461-1466, 2025.10
- ◆川名神威, 菅原遼: 河川空間のオープン化事業の動向及び親水と浸水の両義的側面からみた河川空間利用の分類, 土木学会論文集 (土木計画学) 80巻 20号, ID: 24-20121, 2025.6

口頭発表・ポスター発表

- ◆島垣麟太郎, 川名神威, 鈴木陸, 三田晴貴, 菅原遼, 諸藤弘之, 久保田穂衣: 運河沿いの遊歩道を活用した賑わい創出に向けた実証実験の効果と課題, 日本建築学会関東支部研究発表会, 2026.3

- ◆川名神威, 菅原遼, 星上幸良: 地方沿岸部の観光地特性に応じた津波避難ビルの指定実態と津波避難対策の検討, 景観・デザイン研究講演集 No.21, pp.237-243, 2025.12
- ◆川名神威, 菅原遼, 星上幸良: 沿岸観光地における宿泊施設の津波避難ビル指定の実態, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 F2-3, pp.213-214, 2025.12
- ◆今市尚大, 菅原遼, 星上幸良: 高台移転後の通勤型の漁業形態の実態把握 - 東北沿岸部の漁業背後集落を対象として -, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 F2-4, pp.215-216, 2025.12
- ◆福田恭香, 根本祐輔, 菅原遼: 埼玉県における洪水浸水想定区域内に位置する住宅地の地域構造の現状, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-42, pp.542-543, 2025.12
- ◆三田晴貴, 高井和真, 菅原遼: 東京都墨田区における行政と市民団体の雨水利用の動向, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-43, pp.544-545, 2025.12
- ◆矢木結, 鈴木陸, 菅原遼: 水辺空間におけるマルシェの実態と空間利

教員研究業績
研究室活動業績

- 用の特徴、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-44, pp.546-547, 2025.12
- ◆菅野皓太、島垣麟太郎、菅原遼：災害時利用を想定した井戸の分布状況と活用方針の実態 - 南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域を対象として -、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-45, pp.548-549, 2025.12
 - ◆嶋川隼央、川名神威、菅原遼：みなとオアシス登録港における津波発生時の浸水と避難の実態、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-48, pp.554-555, 2025.12
 - ◆長沼麟太郎、今市尚大、菅原遼：みなとオアシスにおける登録施設と防護ラインとの位置関係、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-49, pp.556-557, 2025.12
 - ◆和田武士、川名神威、菅原遼：全国の津波避難タワーにおける日常利用の現状把握、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-50, pp.558-559, 2025.12
 - ◆松岡龍之介、今市尚大、菅原遼：三陸沿岸部における小・中学校の津波防災教育の実施状況、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-51, pp.560-561, 2025.12
 - ◆大野楓、森田健太郎、菅原遼：みなと緑地 PPP 導入港湾における港湾緑地の立地特性、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-52, pp.562-562, 2025.12
 - ◆大森文彦、菅原遼：わが国における港務局の位置づけと今後の官民連携の可能性に関する考察、第72回土木計画学研究発表会・秋大会（企画提案型）、No.47-01, 2025.11
 - ◆菅原遼、佐藤布武、高道昌志、内藤啓太、藪谷祐介、湯浅かさね：水資源の受容型利活用デザインに関する研究 - 水資源の「受け方」と「流し方」に関する事例報告 -、日本建築学会大会（九州）学術講演会 都市計画, pp.109-110, 2025.9
 - ◆高井和真、菅原遼：静岡県三島市の湧水河川による微気象形成効果の検証、日本建築学会大会（九州）学術講演会 都市計画, pp.1043-1044, 2025.9
 - ◆島垣麟太郎、菅原遼：重要文化的景観選定地における水資源の保全に関わる地域連携の実態、日本建築学会大会（九州）学術講演会 農村計画, pp.57-58, 2025.9
 - ◆高田悠真、菅原遼：東京都臨海部に立地する共同住宅を対象とした交通舟運導入可能性の検討、日本建築学会大会（九州）学術講演会 海洋建築, pp.27-28, 2025.9
 - ◆吉田郁夫、菅原遼、増田光弘：日本国内におけるフローティング建築の関連法制度適用の現状調査報告、日本建築学会大会（九州）学術講演会 海洋建築, pp.49-50, 2025.9
 - ◆森田健太郎、菅原遼：港湾における鉄道廃線跡の土地利用の転換実態及び活用ポテンシャルの検討、日本沿岸域学会令和7年度研究討論会（第37回）、講演番号 No.3-3, 2025.7
 - ◆根本祐輔、菅原遼：ショッピングセンターの津波避難ビルの指定実態とその有用性に関する研究、日本沿岸域学会令和7年度研究討論会（第37回）、講演番号 No.12-2, 2025.7
 - ◆菅原遼、鈴木穂一：北海道奥尻町青苗地区における地域住民の住環境評価に関する研究、日本沿岸域学会令和7年度研究討論会（第37回）、講演番号 No.16-1, 2025.7
 - ◆今市尚大、菅原遼、星上幸良：東日本大震災後の住空間と漁港の関わりの変化に関する研究、日本沿岸域学会令和7年度研究討論会（第37回）、講演番号 No.16-2, 2025.7
 - ◆川名神威、菅原遼、星上幸良：沿岸部の観光地における津波避難ビルの指定状況と津波避難対策の実態、第71回土木計画学研究発表会・講演集, A09-2, 2025.6
 - ◆鈴木陸、菅原遼：東京都隅田川の恒常的な賑わい創出に向けた取り組みの実態と課題、第71回土木計画学研究発表会・講演集, A03-1, 2025.3
 - ◆大森文彦、菅原遼、鈴木貴之：港湾における土地利用制度の変遷と

その背景 - 臨港地区および港湾計画に着目して -、第71回土木計画学研究発表会・講演集, D01-2, 2025.6

—— 著書・執筆等 ——

- ◆菅原遼他：インクルーシブな生活圏のインフラ再考 - 解像度を高めて見つけた40のユーザー・つかい方・担い手たち -、2026.3.16（共著）

—— 所属学生の受賞等 ——

- ◆今市尚大：第69回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、高台移転後の通勤型の漁業形態の実態把握 - 東北沿岸部の漁業背後集落を対象として -、2026.1
- ◆三田晴貴：第69回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、東京都墨田区における行政と市民団体の雨水利用の動向、2026.1
- ◆嶋川隼央：第69回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、みなとオアシス登録港における津波発生時の浸水と避難の実態、2026.1
- ◆川名神威：2025年度景観・デザイン研究発表会「優秀講演賞」、地方沿岸部の観光地特性に応じた津波避難ビルの指定実態と津波避難対策の検討、2025.12
- ◆根本祐輔：日本沿岸域学会研究討論会2025「優秀講演賞」、ショッピングセンターの津波避難ビルの指定実態とその有用性に関する研究、2025.7
- ◆森田健太郎：日本沿岸域学会研究討論会2025「優秀講演賞」、港湾における鉄道廃線跡の土地利用の転換実態及び活用ポテンシャルの検討、2025.7

—— 学外活動（講演・講義等） ——

- ◆菅原遼：国内外の水辺の賑わい創出の取り組みと高浜運河の活用事例の紹介、港区・水辺に親しむシンポジウム、2026.3.20（講演）
- ◆菅原遼：港湾の民間開放の施策と取り組み、インナーハーバーシズンシップ オンラインサミット - 幸せな港湾 -、2026.3.7（講演）
- ◆菅原遼：高浜キャナルパーク開催報告、品川カルチャーズナック、2025.11.28-29（展示）
- ◆菅原遼：高浜運河沿いの遊歩道の活用に関する実証実験、高浜キャナルパーク、2025.11.20（実証実験）
- ◆菅原遼：KOTO MIZUBE-BA PLANに関する情報発信、明治丸と芝生のマルシェ2025、2025.11.15（展示）
- ◆菅原遼：高浜運河沿いの遊歩道の活用に関する実証実験、高浜キャナルパーク、2025.10.25（実証実験）
- ◆菅原遼：mizube bar 設置と KOTO MIZUBE-BA PLAN に関する情報発信、清洲橋びあてらす2025、2025.9.27（展示）
- ◆菅原遼：港湾の理解するためのコトバ10選「港湾の民間参画編」、第2回港湾シズンシップ勉強会、2025.9.19（講演）
- ◆菅原遼：水辺の可能性を追求するまちづくりを考える - 東京・天王洲運河での水上空間利活用事例を中心として -、VENTURE CAFÉ FUKUOKA Thursday Gathering, 2025.9.11（講演）
- ◆菅原遼：フローティングアーキテクチャーの歴史と現在、そして将来の可能性、日本建築学会大会（九州）海洋建築部門 研究協議会 討論、2025.9.10（講演）
- ◆菅原遼：江東区の水辺リサーチ&アクション、第18回江東区環境フェア、2025.6.1（展示）
- ◆菅原遼：mizube bar 設置と KOTO MIZUBE-BA PLAN に関する情報発信、隅田川マルシェ2025 HAPPY GOLDEN WEEK, 2025.5.3（展示）
- ◆菅原遼：mizube bar 設置と KOTO MIZUBE-BA PLAN に関する情報発信、隅田川マルシェ2025 春のうららの、2025.4.5（展示）

—— 学外活動（委員会活動等） ——

- ◆菅原遼：日本建築学会、水資源の受容型利活用デザイン [若手奨励] 特別研究委員会 委員長

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆菅原遼：日本建築学会、都市と産業研究小委員会 都市の臨海部の公共空間WG 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会、海洋建築本委員会 委員
- ◆菅原遼：日本建築学会、フローティング建築小委員会 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会、親水とSDGs 刊行小委員会 幹事
- ◆菅原遼：日本建築学会、卒業論文等顕彰事業委員会 委員
- ◆菅原遼：日本都市計画学会、学術委員会 委員
- ◆菅原遼：日本沿岸域学会、企画運営委員会 委員
- ◆菅原遼：日本沿岸域学会、選挙管理委員会 委員
- ◆菅原遼：荒川ロックゲート・ヒル勉強会 委員

- ◆菅原遼：越中島エリアまちづくり準備協議会 委員
- ◆菅原遼：品川港南スタイル研究会、ミズベ・パークナイズ部 部長
- ◆菅原遼：一般社団法人水辺荘 理事

研究助成・受託研究

- ◆菅原遼：令和6年度科学研究費助成事業、都市河川の親水まちづくりに資する親水組織の形成過程と役割の解明
- ◆菅原遼：一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所 令和7年度研究助成、東北沿岸部の漁業集落における職住分離型の漁業への適応を図るための生活形態及び漁業活動の変容に関する研究

ウォーターフロント都市工学研究室（寺口・桜井）

口頭発表・ポスター発表

- ◆芦ヶ原治希・寺口敬秀・桜井慎一：放置艇対策としてのマリナー等以外施設整備の可能性に関する研究-中国・四国地方における整備候補地の分析-、日本沿岸域学会研究討論会2025講演概要集No.37、講演番号7-1、2025.7
- ◆寺口敬秀・恵藤浩朗：洋上風力発電施設の整備に向けた協議会の設置状況と活動内容について、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.5-8、2025.7
- ◆芦ヶ原治希・寺口敬秀・桜井慎一・鈴木陽斗：放置艇対策としてのマリナー等以外施設の現状と課題に関する研究-中国・四国地方を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.17-18、2025.7
- ◆秋吉佳乃子・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：水辺に立地する建築物と水面との関わりに関する研究-東京都の運河・河川を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.19-20、2025.7
- ◆野中奈桜・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：都市河川の開渠化・二層化・暗渠化に関する研究-京都府・大阪府・兵庫県を対象として-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.21-22、2025.7
- ◆稲見龍生・寺口敬秀・桜井慎一・鈴木陽斗：ウォーターフロントにおける低未利用地の土地利用変化に関する研究-東京臨海地域を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.23-24、2025.7
- ◆佐藤彼方・寺口敬秀・桜井慎一・石田大誠：都市公園における水面の変遷に関する研究、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.25-26、2025.7
- ◆高橋志温・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：水辺空間を利用したスタジアム・アリーナの混雑緩和対策に関する研究-施設利用時における水辺空間の有効活用について-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.29-30、2025.7
- ◆野呂ひなた・寺口敬秀・桜井慎一・芦ヶ原治希：沿岸域の立地特性を活かした水族館運営に関する研究、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.31-32、2025.7
- ◆片山太一・寺口敬秀・桜井慎一・石田大誠・杉田祐将：河川沿いのベンチから望む景観に関する研究-隅田川を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.37-38、2025.7
- ◆川畑俊介・寺口敬秀・桜井慎一・鈴木陽斗：津波避難ビルの整備状況と運用実態に関する研究-大阪市の10区を対象として-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.39-40、2025.7
- ◆上田真菜美・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：在留外国人における津波災害の情報伝達手段に関する研究-南海トラフ地震津波避難対策強化地域を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.41-42、2025.7

- ◆阿部和真・寺口敬秀・桜井慎一・石田大誠・杉田祐将：要配慮者の津波避難の現状に関する研究-静岡県沿岸部を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.43-44、2025.7
- ◆阿部拓真・寺口敬秀・桜井慎一：津波避難を阻害する鉄道線路の横断方策に関する研究-市町村における対策状況の調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.45-46、2025.7
- ◆安藤大智・寺口敬秀・桜井慎一・阿部拓真・芦ヶ原治希：世界の海上都市プロジェクトの動向に関する研究-2000年以降のプロジェクトを対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.51-52、2025.7
- ◆安里太希・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：ホテルに隣接する海浜の維持管理に関する研究-沖縄県を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.53-54、2025.7
- ◆鈴木陽斗・寺口敬秀・桜井慎一・丸山愛未：沿岸市町村における人口変動と自治体の取り組みに関する研究、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.57-58、2025.7
- ◆杉田祐将・寺口敬秀・桜井慎一：ライフジャケットの利用促進に関する研究-ライフジャケットの着用者・製造会社を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.59-60、2025.7
- ◆桜井慎一・寺口敬秀・石田大誠：水上バイク利用に関する条例およびローカルルールに関する研究-全国の湖沼および海水浴場を対象とした調査-、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集2025（海洋建築）、pp.63-64、2025.7
- ◆寺口敬秀・桜井慎一・小出将貴：港湾施設を活用した海釣り施設の整備に関する研究-釣り施設の管理者および利用者に対するアンケート調査-、第72回土木計画学研究発表会・講演集、講演番号47-06、2025.11
- ◆星上幸良・波多野正俊・入江寿弘・小林伸彰・轟朝幸・吉岡慶祐・兵頭知・相田康洋・寺口敬秀：海浜公園における安全管理支援システムの構築と社会実装化に関する研究、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.9-10、2025.12
- ◆鈴木陽斗・寺口敬秀・桜井慎一：クルーズ船がもたらすオーバーツーリズムの影響と対策に関する研究-寄港実績のある自治体に対してのアンケート調査-、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.460-461、2025.12
- ◆安里太希・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：リゾートホテルに面する海浜の維持管理に関する研究-沖縄県のホテル事業者を対象としたヒアリング調査-、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.462-463、2025.12
- ◆野中奈桜・寺口敬秀・桜井慎一・芦ヶ原治希：河川や水路の開渠化・二層化に関する研究-西日本を対象として-、令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.464-465、2025.12
- ◆安藤大智・寺口敬秀・桜井慎一・芦ヶ原治希：海面上昇に対応する

教員研究業績 研究室活動業績

ことを目的とした浮体式海上都市計画に関する研究-生成AIを援用したインターネット調査に基づく事例収集-, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.466-467, 2025.12

- ◆上田真菜美・寺口敬秀・桜井慎一・杉田祐将：津波避難における在留外国人への情報伝達に関する研究-東日本大震災・能登半島地震の津波被災地を対象とした調査-, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.468-469, 2025.12
- ◆野呂ひなた・寺口敬秀・桜井慎一・芦ヶ原治希：水族館における海辺の立地特性の活用実態に関する研究, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.470-471, 2025.12
- ◆阿部和真・寺口敬秀・桜井慎一・芦ヶ原治希：災害時要配慮者の津波避難に関する研究-静岡県沿岸の要配慮者利用施設の分布状況調査-, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.472-473, 2025.12
- ◆芦ヶ原治希・寺口敬秀・桜井慎一：放置艇対策におけるマリナー等以外施設の整備状況と開放余地に関する研究-千葉県漁港と港湾を対象とした調査-, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.474-475, 2025.12
- ◆杉田祐将・寺口敬秀・桜井慎一：海岸の多目的利用を促進するための空間整備と管理運営に関する研究-海岸管理者を対象としたアンケート調査-, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, pp.476-477, 2025.12

著書・執筆等

- ◆桜井慎一：主旨説明, 日本建築学会海洋建築委員会, 2025年度日本建築学会大会(九州)海洋建築部門研究協議会「フローティングアーキテクチャーの歴史と現在, そして将来の可能性」, pp.1-2, 2025.9
- ◆寺口敬秀：2023年度日本建築学会(近畿)大会報告 海洋建築部門研究協議会 フローティングアーキテクチャーの歴史と現在, そして将来の可能性, 建築雑誌, Vol.141 No.1810, p.52, 日本建築学会, 2026.2

所属学生の受賞等

- ◆野呂ひなた：2025年度日本建築学会(九州)学術講演会若手優秀発表賞, 沿岸域の立地特性を活かした水族館運営に関する研究, 日本建築学会, 2025.11.
- ◆芦ヶ原治希：日本沿岸域学会研究討論会2025優秀講演表彰, 放置艇対策としてのマリナー等以外施設整備の可能性に関する研究-中国・四国地方における整備候補地の分析-, 日本沿岸域学会, 2025.12
- ◆芦ヶ原治希：令和7年度第69回日本大学理工学部学術講演会優秀

講演者賞, 放置艇対策におけるマリナー等以外施設の整備状況と開放余地に関する研究-千葉県の漁港と港湾を対象とした調査-, 2026.1

学外活動(講演・講義等)

- ◆桜井慎一：主旨説明, 日本建築学会海洋建築委員会, 2025年度日本建築学会大会(九州)海洋建築部門研究協議会「フローティングアーキテクチャーの歴史と現在, そして将来の可能性」, 2025.9
- ◆寺口敬秀：パネルディスカッションファシリテーター, 能登半島地震復興フォーラム2025「失われた漁港 手に入れた砂浜“ガクセイのチカラ”を能登黒島に」, 2025.11

学外活動(委員会活動等)

- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・海洋エネルギー支援施設小委員会 幹事
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本観光研究学会・学術委員会 委員
- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会 会長
- ◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆桜井慎一：館山市建設工事総合評価委員
- ◆桜井慎一：日本マリナー・ビーチ協会 理事
- ◆桜井慎一：福井県おおい町 うみんびあ大飯マリナー指定管理候補者審議委員会 委員
- ◆桜井慎一：国土交通省関東運輸局・海の駅防災事業ワーキンググループ 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員長
- ◆桜井慎一：日本建築学会・学術推進委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員

研究助成・受託研究

- ◆寺口敬秀：研究奨励寄付金, 日本沿岸域学会, 北海道における津波避難円滑化に向けた鉄道線路の適切な横断施設設置方策の検討

居駒研究室

審査付論文

- ◆福永佳晏, 居駒知樹, 譚 雷, 林 昌奎：回転円柱周辺の運動量伝搬と乱流促成に関する基礎的研究-静水中の回転円柱と高周速比の回転円柱周辺の乱流特性について-, 日本船舶海洋工学会論文集, 第41号, pp.1-9, 2025.8.
- ◆Kento Suzuki, Tomoki Ikoma, Lei Tan and Yasuhiro Aida, "Weakly Nonlinear Estimation of Hydrodynamic Forces and Motions on a Barge Type Floating Body With Moonpools in Waves," Proceedings of ASME 2025 44th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2025), OMAE2025-156998, 2025.8.

口頭発表・ポスター発表

- ◆中澤響生, 居駒知樹：ムーンプール付バージ型浮体で構成される連結浮体の波浪中挙動に関する研究, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No.

37, 9-1, 2025.7.

- ◆貝澤裕平, 居駒知樹, 増田光一：ムーンプールを有するポンツーン型浮体の斜波中における波浪外力特性に関する実験的研究, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 9-2, 2025.7.
- ◆常睿遠, 居駒知樹：プロジェクトングウォール付振動水柱型波力発電装置の数値モデリングおよび数値流体力学的解析, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 9-3, 2025.7.
- ◆小櫃蓮華, 居駒知樹：斜波中における浮体式PW-OWC型波力発電装置の運動及び一次変換特性に関する実験的研究, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 9-4, 2025.7.
- ◆増田光一, 居駒知樹, 宮武竜希：プロジェクトングウォール付き振動水柱型浮体式波力発電装置の常波漂流力及び1次変換性の特性に関する数値的研究, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 9-5, 2025.7.
- ◆永田友哉, 居駒知樹：可変ピッチ機構搭載ブレードが一点係留された垂直軸風車の回頭運動に与える影響に関する実験的研究, 日本沿岸域学

教員研究業績
研究室活動業績

会研究討論会梗概集, No. 37, 13-1, 2025.7.

- ◆加藤奏, 居駒知樹, 林昌奎, 周速比とソリディティが垂直軸型水車に作用する流体力に与える影響に関する実験的研究, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 13-2, 2025.7.
- ◆Zho Boxuan, 居駒知樹: 波・流れ・共存場の FLOW-3D による数値再現に関する基礎的研究, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 13-3, 2025.7.
- ◆福永佳晏, 居駒知樹, 林昌奎: 水槽実験と CFD 計算による高周速比の回転円柱に作用する流体力についての調査, 日本沿岸域学会研究討論会梗概集, No. 37, 14-6, 2025.7.
- ◆居駒知樹: 洋上風力発電開発における SOV の導入に向けて, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10003, 2025
- ◆篠原大佑, 末永慶寛, 増田光一, 居駒知樹, 畔柳昭雄: 四国・瀬戸内地域における激甚災害時の浮体式災害医療支援システムの適用に関する一考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10014, 2025
- ◆戸部暉, 居駒知樹: 洋上風力用基礎杭の吊り下げ時の挙動に関する空中強制動揺実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10045, 2025
- ◆永田友哉, 千田悠斗, 居駒知樹: 可変ピッチ機構を有する二基の垂直軸風車を搭載した一点係留浮体の回頭運動に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10048, 2025
- ◆千田悠斗, 居駒知樹: 風波によって生じる定常波漂流力が 2 基の可変式垂直軸風車を搭載した一点係留浮体の振れ回り運動に与える影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10049, 2025
- ◆小櫃蓮華, 居駒知樹: 浮体式 PW-OWC 型波力発電装置の運動及び一次変換性能に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10055, 2025
- ◆貝澤柁平, 居駒知樹, 増田光一: ムーンプールを有するポンツーン型浮体の斜波中における波強制力特性に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10056, 2025
- ◆加藤奏, 居駒知樹, 林昌奎: 一樣流中で回転する垂直軸型水車に作用する流体力および周辺の流場に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10057, 2025
- ◆阿部耀介, 居駒知樹, 林昌奎: 一樣流中における線状構造物の回転が固有振動数に与える影響に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 海洋建築 10058, 2025
- ◆貝澤柁平, 永田友哉, 居駒知樹, 増田光一: 斜波中におけるムーンプール付きバジ型浮体に作用する波浪外力特性に関する実験的研究, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第 41 号, 論文番号 2025A-GS21-4, pp.1021-1025, 2025.11.
- ◆常睿遠, 譚雷, 居駒知樹: プロジェクティングウォール付振動水柱型波力発電装置におけるウォール形状と入射波角度の影響, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第 41 号, 論文番号 2025A-GS20-4, pp.993-997, 2025.11.

著書・執筆等

- ◆居駒知樹: 本理工学部の真の魅力, 桜工, 108 号, 2026.3.

所属学生の受賞等

- ◆小櫃蓮華: 日本建築学会大会学術講演会海洋建築委員会若手優秀発表賞, 浮体式 PW-OWC 型波力発電装置の運動及び一次変換性能に関する実験的研究, 日本建築学会, 2025.11.
- ◆加藤奏: 日本建築学会大会学術講演会海洋建築委員会若手優秀発表賞, 一樣流中で回転する垂直軸型水車に作用する流体力および周辺の流場に関する実験的研究, 日本建築学会, 2025.11.

学外活動 (講演・講義等)

- ◆居駒知樹 (講演): 日本の浮体式洋上風力開発と課題, 神鋼鋼線工業株

式会社特別セミナー, 2025.5.19.

- ◆Tomoki Ikoma (Keynote Lecture), "Hydrodynamic Problems with Nonlinearity for Offshore Structures on Renewable Energy," Keynote Lecture, The 13th International Workshop on Ship and Marine Hydrodynamics (IWSH2025) in Fukuoka, 2025.8.
- ◆居駒知樹 (パネルディスカッションモデレーター): Panel Session 5 浮体式洋上風力発電の展望, Techno-Ocean 2025, 2025.11.
- ◆居駒知樹 (パネルディスカッションモデレーター): 海洋空間計画から考える日本の海洋管理のあるべき姿, 第 55 回海洋工学パネル, 日本海洋工学会, 2026.1.16.
- ◆居駒知樹 (テレビ出演): 「海の日を前に考える 海洋再生可能エネルギーの未来」, BS11 報道ライブインサイド OUT, 2025.7.18.
- ◆居駒知樹 (座談会): 浮体式洋上風力発電の導入に向けた課題と展望, CDIT, 一般財団法人沿岸技術研究センター機関誌, Vol. 64, 2025.10.

学外活動 (委員会活動等)

- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆日本沿岸域学会 副会長, 理事 (6 月まで)
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 (OEAJ) 理事 (学術担当)
- ◆日本海洋工学会 理事, 運営委員 (日本沿岸域学会担当)
- ◆テクノ・オーシャン・ネットワーク (TON) 理事
- ◆PACON International, Board member (理事)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・フローティング建築小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学・海洋環境研究企画部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆OMAE 2026 (Tokyo), Conference Co-Chair
- ◆OMAE2026 (Tokyo) Local Organizing Committee Co-chair
- ◆OMAE 2025 & OMAE 2026 Symposium Coordinator of Ocean Space Utilization
- ◆ASME, Extended Executive Committee Member of Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OOAE)
- ◆RENEW 2026: International Scientific Committee Member
- ◆WCFS 2025: International Scientific Committee Member
- ◆Techno-Ocean 2025: 実行委員, Technical Program Committee 委員, Panel Session 5 (浮体式洋上風力発電の展望) コーディネーター
- ◆Renewable Energy 2025 分科会8 (海洋エネルギー) Co-Readers
- ◆IEC TC114 国内委員
- ◆IEC TC114 MT 62600-103 - Guidelines for WEC testing, 国際委員
- ◆NEDO, 特殊な設置形態の太陽光発電設備に関する安全性確保のためのガイドライン策定委員会 委員
- ◆国土交通省・港湾局 (日本港湾協会事務局), 洋上風力導入促進に向けた港湾のあり方に関する検討会, 委員
- ◆日本 ERI 株式会社, 建築基準法に基づく建築物構造性能評価委員会 委員
- ◆一般社団法人 みなと総合研究財団 審査委員会 委員
- ◆土木学会 会員
- ◆ASME member
- ◆海洋技術フォーラム 幹事
- ◆海洋工学懇談会 幹事
- ◆博士論文審査委員 (海外大学): NITK (国立カルナタカ工科大学, インド (1件))

教員研究業績 研究室活動業績

研究助成・受託研究

- ◆居駒知樹：共同研究，東京電力ホールディングス株式会社・東京大学，スパー型浮体に働く周囲流体場の流体力学的特性に関する研究 その2
- ◆居駒知樹：共同研究，パシフィックコンサルタンツ株式会社，1/80スケールを想定した水平軸型風車を搭載したセミサブ型浮体式風車の設計および水槽実験による浮体の耐波浪性能の検証

- ◆居駒知樹：受託研究，（一財）港湾空港総合技術センター，港湾における先進プロジェクト・デザイン技術に関する基礎調査
- ◆居駒知樹：共同研究，パシフィックコンサルタンツ株式会社，1/80スケールを想定した水平軸型風車を搭載したバジ型浮体式風車の設計および水槽実験による浮体の耐波浪性能の検証

惠藤研究室

審査付論文

- ◆Hiroaki Eto, Takumi Terada, Atsushi Nishida, Masatoshi Ishibashi: Fundamental Study on Uplift and Compressive Pressure Acting on Hybrid Caisson Breakwater Using Particle Method, Proceedings of ISOPE2025, ISOPE-I-25-459, 2025.06.
- ◆Hiroaki Eto, Yoshito Fujisawa, Takumi Sato: Wind Load and Starting Characteristics of Floating Cross Axis Wind Turbine, Proceedings of ISOPE2025, ISOPE-I-25-045, 2025.06.
- ◆惠藤浩朗，神田匠：ブイ・クランプウエイトを用いたチェーンカテナリー係留の浅海域における係留特性，特集号（海洋開発）論文，81巻18号，25-18083，2025.06.
- ◆惠藤浩朗，藤澤佐翔：交差軸型風車の風荷重と起動特性に関する研究，特集号（海洋開発）論文，81巻18号，25-18088，2025.06.

口頭発表・ポスター発表

- ◆中島麻悠美，惠藤浩朗：日本の洋上風力発電の大型化に伴う港湾インフラ整備に関する課題，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 オーガナイズドセッション，pp.1-4，2025.09.
- ◆寺口敬秀，惠藤浩朗：洋上風力発電施設の整備に向けた協議会の設置状況と活動内容について，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 オーガナイズドセッション，pp.5-8，2025.09.
- ◆藤澤佐翔，惠藤浩朗：交差軸型風車の風荷重と起動特性に関する研究 その1 高回転時における風荷重特性，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.99-100，2025.09.
- ◆惠藤浩朗，藤澤佐翔：交差軸型風車の風荷重と起動特性に関する研究 その2 低回転時における起動特性，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.101-102，2025.09.
- ◆神田匠，惠藤浩朗：ブイ・クランプウエイトを用いたチェーンカテナリー係留の浅海域における係留特性，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.109-110，2025.09.
- ◆鈴木涉，惠藤浩朗：海底水深変化に対応した弾性係留システムの諸元選定に関する検討，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.111-112，2025.09.
- ◆横川健悠，惠藤浩朗，寺田拓海：ジャケット式栈橋下の圧縮空気と波による揚圧力の気液連成解析，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.113-114，2025.09.
- ◆寺田拓海，惠藤浩朗：不規則波浪場におけるハイブリッドケーソン式防波堤のSPH法による波圧特性，日本建築学会大会（九州）学術講演会梗概集 pp.115-116，2025.09.
- ◆横川健悠，寺田拓海，惠藤浩朗：SPH法を用いた円筒タンクにおけるスロッシング解析，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-29，2025.12.

- ◆市川温基，木村将崇，寺田拓海，惠藤浩朗，西田淳，石橋榮稔：ハイブリッドケーソンに作用する波圧評価のための透過性マウンドに関する数値解析，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-30，2025.12.
- ◆木村将崇，玉沖竜晟，寺田拓海，惠藤浩朗，西田淳，石橋榮稔：数値波動水路プログラムを用いたハイブリッドケーソンに作用する波圧の特性評価，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-31，2025.12.
- ◆小澤瞬，高橋カノ，神田，鈴木涉，惠藤浩朗：ブイ・クランプウエイトによるチェーンカテナリー係留における鋼材削減効果に関する検討，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-32，2025.12.
- ◆清水朝貴，光村美南，寺田拓海，惠藤浩朗：ジャケット式栈橋床版に作用する圧縮空気と波による揚圧力評価，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-36，2025.12.
- ◆関根彰良，土上湧生，鈴木涉，惠藤浩朗：弾性係留システムの諸元変化に伴う運動応答関数の特性評価，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-37，2025.12.
- ◆大内南沙，大嶋瑠美，藤澤佐翔，惠藤浩朗：scFLOWを用いた水柱崩壊解析と浮体運動応答解析による妥当性評価，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-38，2025.12.
- ◆上原鷹宗，中島裕也，藤澤佐翔，惠藤浩朗：交差軸型風車の起動特性における迎角に関する研究，第69回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会，J-39，2025.12.

所属学生の受賞等

- ◆神田匠：2025年度日本建築学会大会〔九州〕海洋建築部門「2025年度若手優秀発表賞」，ブイ・クランプウエイトを用いたチェーンカテナリー係留の浅海域における係留特性，2025.12.

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 主査
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員
- ◆国際津波防災学会 総務担当理事
- ◆国際津波防災学会 総会／学術集会 コーディネーター
- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー

研究助成・受託研究

- ◆惠藤浩朗：受託研究，ハイブリッドケーソン式防波堤の揚圧力と抑圧力に関する研究，日本エンジニアリング株式会社
- ◆惠藤浩朗：受託研究，栈橋に作用する圧縮空気および波による揚圧力に関する研究，日本エンジニアリング株式会社

相田研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆舟塚誠樹，相田康洋：性能の異なる計算ノードを組み合わせたコンピュー

- タークラスターによる粒子法の並列化手法に関する基礎的研究，日本沿岸域学会研究討論会，2025年度講演概要集

教員研究業績 研究室活動業績

◆舟塚誠樹, 相田康洋: 性能の異なる計算ノードを組み合わせたコンピュータクラスターによる粒子法の並列化手法に関する基礎的研究, 第69回日本大学理工学部学術講演会梗概集

所属学生の受賞等

◆舟塚誠樹: 2025年度日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞

学外活動 (講演・講義等)

◆相田康洋: Offshore and Coastal Development in Japan -Focusing on Offshore Wind Turbine and Related Topics-, ブラジルサンパウロ大学, 特別講義, 2025.11.11

◆相田康洋: Offshore and Coastal Development in Japan -Focusing on Offshore Wind Turbine and Related Topics-, 英国ストラスカイト大学キーンノートスピーチ, 2025.12.10

学外活動 (委員会活動等)

◆船舶海洋工学会, 海洋環境・海洋工学合同研究委員会, 委員
◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員
◆日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
◆沿岸域学会 企画運営委員会, 委員
◆OMAE2026 Ocean Space Utilization Tsunami & Hightide Co.Director

北嶋研究室

審査付論文

◆S.TANIUCHI, Y.KOIDE,R.,NAKADATE, M.HADA and K.KITAJIMA: Study on Sliding Foundation Building using Graphite Friction Materials, 19th World Conference on Seismic Isolation, Energy Dissipation and Active Vibration Control of Structures, Paper No.194, Berkeley, California, USA, 2025.9

◆扇谷匠己, 吉野竣, 江口琢菜, 北嶋圭二: RC 造共同住宅の損傷評価が可能な2台の加速度センサによるモニタリングシステムの開発と検証, コンクリート工学論文集, Vol.36, 2026.3

口頭発表・ポスター発表

《日本建築学会大会》

◆波田雅也, 関祥汰, 塚田馨, 奥野陸人, 竹内健一, 北嶋圭二: 中鋼管降伏タイプの折返しブレースの構造特性に関する実験的研究 (その5 片掛け配置用に長尺化した中鋼管降伏タイプの実験概要), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.1453-1454, 2025.9

◆関祥汰, 塚田馨, 奥野陸人, 波田雅也, 竹内健一, 北嶋圭二: 中鋼管降伏タイプの折返しブレースの構造特性に関する実験的研究 (その6 片掛け配置用に長尺化した中鋼管降伏タイプの実験結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.1455-1456, 2025.9

◆中館良太, 小出裕輝乃, 谷内颯真, 波田雅也, 北嶋圭二: 滑り基礎構造建物の2方向振動台実験 (その5 マルチディンブルを有する試験体の実験概要と基礎板単体の実験結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.869-870, 2025.9

◆小出裕輝乃, 中館良太, 谷内颯真, 波田雅也, 北嶋圭二: 滑り基礎構造建物の2方向振動台実験 (その6 マルチディンブルを有する上屋付き滑り試験体の実験結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.871-872, 2025.9

◆谷内颯真, 小出裕輝乃, 波田雅也, 北嶋圭二: 浮上り挙動を伴う塔状比の大きい滑り基礎構造建物の2方向振動台実験 (その3 滑りと浮上り挙動の評価), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.873-874, 2025.9

◆寺岡大輝, 塩見義弘, 北嶋圭二: 間柱型ダンパーを用いた制震構造設計法に関する研究 (その1 設計法の概要), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.637-638, 2025.9

◆塩見義弘, 寺岡大輝, 北嶋圭二: 間柱型ダンパーを用いた制震構造設計法に関する研究 (その2 10層鋼構造建物を対象とした制震構造設計スタディー), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.639-640, 2025.9

◆吉野竣, 江口琢菜, 佐藤萌, 扇谷匠己, 北嶋圭二: 観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究 (その7 1次モード応答の抽出のための高周波遮断振動数の検討と最大層間変形角の推定), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.229-230, 2025.9

◆江口琢菜, 吉野竣, 佐藤萌, 扇谷匠己, 北嶋圭二: 観測加速度記録に

基づくRC造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究 (その8 全体変形角に基づく損傷程度の判定), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.495-496, 2025.9

◆吉原楽, 唐澤侑太, 波田雅也, 北嶋圭二: 木造多層建物への次世代制震構造システムの有効性に関する研究 (その2 骨組試験体の制震構造検討および架橋実験), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.495-496, 2025.9

◆唐澤侑太, 吉原楽, 波田雅也, 北嶋圭二: 木造多層建物への次世代制震構造システムの有効性に関する研究 (その3 試作した連層耐震壁脚部の回転摩擦ダンパーの実験), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.497-498, 2025.9

◆佐藤萌, 岸本大誠, 北嶋圭二: 新耐震設計法で設計されたRC造建物の損傷評価法に関する研究 (その1 検討建物の概要と保水平耐力計算結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.621-622, 2025.9

◆岸本大誠, 佐藤萌, 北嶋圭二: 新耐震設計法で設計されたRC造建物の損傷評価法に関する研究 (その2 等価線形化法による損傷評価結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.623-624, 2025.9

◆土田亮章, 波田雅也, 上田英明, 北嶋圭二: 設置後20年を経過した外付け制震ブレースの「摩擦ダンパー」性能確認試験 (その2 40tfダンパーの経年特性), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.683-684, 2025.9

◆永吉琉莞, 上原卓暉, 北嶋圭二: 津波漂流物を想定した衝突荷重に関する実験的研究 (その1 研究目的および気中衝突実験の概要), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.65-66, 2025.9

◆上原卓暉, 永吉琉莞, 北嶋圭二: 津波漂流物を想定した衝突荷重に関する実験的研究 (その2 計測概要および実験結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.67-68, 2025.9

《理工学部学術講演会》

◆岸本大誠, 北嶋圭二: 新耐震設計法で設計されたRC造建物の地震応答評価 一設計用スペクトルに関する検討一, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, 構造・強度部会, B-31, pp.77-78, 2025.12

◆吉原楽, 唐澤侑太, 北嶋圭二: 次世代制震構造システムを適用した木質骨組試験体の解析, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, 構造・強度部会, B-32, pp.79-80, 2025.12

◆永吉琉莞, 上原卓暉, 北嶋圭二: 津波避難ビルの構造部材性能に関する研究 一RC耐力壁の崩壊波圧および限界波高における算定方法の検討一, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, 構造・強度部会, B-33, pp.81-82, 2025.12

◆吉野竣, 佐藤萌, 扇谷匠己, 北嶋圭二: 1台の加速度計による中高層RC造集合住宅の建物全体変形角の推定, 令和7年度日本大学理工学部学術講演会, 構造・強度部会, B-34, pp.83-84, 2025.12

◆内颯真, 小出裕輝乃, 中館良太, 浦野深聖, 北嶋圭二: 滑り基礎構造建物に生じる最大滑り変位の予測 一上屋剛体の検討一, 令和7年度日本大

教員研究業績 研究室活動業績

- 学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-35、pp85-86、2025.12
- ◆小出裕輝乃、中館良太、谷内颯真、北嶋圭二：滑り基礎構造を用いた10階建て鉄筋コンクリート造建物の地震応答解析、令和7年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-36、pp.87-88、2025.12
 - ◆中館良太、小出裕輝乃、谷内颯真、北嶋圭二：滑り基礎構造の基礎板挙動に関する検討ーシングルディンブルとマルチディンブルの比較ー、令和7年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-37、pp.89-90、2025.12

————— 著書・執筆等 —————

- ◆北嶋圭二(分担執筆)：「バッシン制振構造の設計・計算講習会テキスト」、日本免震構造協会、2025.11

————— 学位審査(論文博士) —————

- ◆北嶋圭二(学位審査委員会主査)：申請者竹内貞光、申請論文「サブストラクチャー・リアルタイム・オンライン応答実験法による超高層免震建築物の地震および風応答に関する研究」、2025.10

————— 所属学生の受賞等 —————

- ◆小出裕輝乃：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験(その6 マルチディンブルを有する上屋付き滑り試験体の実験結果)、2025年度日本建築学会大会(九州)構造部門振動分野 若手優秀発表賞、2025.11
- ◆吉野竣：1台の加速度計による中高層RC造集合住宅の建物全体変形角の推定、令和7年度日本大学学術講演会優秀発表賞(【口頭発表】構造・強度部門)、2025.12

————— 学外活動(講演・講義等) —————

- ◆令和7年度総会記念講演会「阪神淡路大震災からの30年を振り返って」、構造調査コンサルティング協会、2025.5.20(記念講演会講師)
- ◆JSSI「第6回 バッシン制振構造の設計・計算講習会」、日本免震構造協会、2025.11(講習会講師)
- ◆AIJ 関東支部既刊図書講習会「免震・制振構造の設計一学びやすい構造設計一」、日本建築学会関東支部、2025.12.5(講習会講師)
- ◆JSSI「最近の制振構造の傾向と設計事例 2026 講習会」、日本免震構造協会、2026.2.10(講習会講師)

————— 学外活動(委員会活動等) —————

- ◆日本建築学会 会計理事
- ◆日本建築学会 企画運営委員会(委員)
- ◆日本建築学会 財務運営委員会(委員)

- ◆日本建築学会 会館委員会(委員)
- ◆日本建築学会 建築会館の将来と財政健全化に向けた検討 TF(委員)
- ◆日本建築学会 卒業論文等顕彰事業委員会(委員)
- ◆日本建築学会 既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会(幹事)
- ◆日本建築学会 大地震時耐震性能評価小委員会・基礎滑動構造 WG(委員)
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会(委員)
- ◆日本建築学会 フローティング建築小委員会(委員)
- ◆日本建築学会 関東支部 地震災害調査連絡会(委員)
- ◆日本建築学会 関東支部 講習会用構造テキスト委員会・耐震構造の設計執筆 WG(委員)
- ◆日本建築学会 関東支部 講習会用構造テキスト委員会・免震制振構造の設計執筆 WG(委員)
- ◆日本コンクリート工学会 鉄筋コンクリート造津波避難施設の被害軽減化技術検討委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 資格制度委員会(委員長)
- ◆日本免震構造協会 資格制度委員会・運営幹事会(委員長)
- ◆日本免震構造協会 資格制度委員会規定改定 WG(主査)
- ◆日本免震構造協会 修士論文賞審査委員会(委員)(-2025.6)
- ◆日本免震構造協会 技術委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 制振部材品質基準小委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会 制振評価小委員会・制振普及 WG(委員)
- ◆日本免震構造協会 バッシン制振構造設計・施工マニュアル第4版編集委員会(委員)
- ◆日本沿岸域学会 理事(-2025.6)
- ◆日本沿岸域学会 論文集編集委員会(委員)(-2025.6)
- ◆ハウスプラス確認検査 高層評定委員会(委員)
- ◆ハウスプラス確認検査 耐震診断・耐震改修等評定委員会(副委員長)
- ◆日本建築検査協会 耐震評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会 高層評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会(委員)
- ◆構造調査コンサルティング協会 構造物評定委員会(委員)

————— 研究助成・受託研究 —————

- ◆委託研究：青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆研究奨励寄付金：株式会社長谷工コーポレーション、構造ヘルスマニタリングに関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社社名構設計、折返しプレート式座屈拘束プレート(FP-BRB)に関する研究

福井研究室

————— 審査付論文 —————

- ◆深谷勇介、引田翔太、福井剛、柴山淳：部分アンボンドPCaPC梁の曲げ性状に関する実験的研究、第34回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム(福井) 論文集 pp.393-398、2025.11

————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆橋本倭里、柴山淳、福井剛：環境配慮型コンクリートを用いたPC梁の曲げ性状に関する実験的研究(その1 長期曲げ載荷試験概要)、日本建築学会大会(九州)学術講演会梗概集 pp.671-672、2025.9
- ◆柴山淳、橋本倭里、福井剛：環境配慮型コンクリートを用いたアンボンドPC梁の曲げ性状に関する実験的研究(その2 たわみおよびひび割れ性状)、日本建築学会大会(九州)学術講演会梗概集 pp.673-674、2025.9
- ◆内田龍一郎、福井剛、浜原正行：付着割裂破壊を起こすRC部材の応力(その1 実験概要と実験結果)、日本建築学会大会(九州)学術講演

会梗概集 pp.675-676、2025.9

- ◆福井剛、浜原正行、内田龍一郎：付着割裂破壊を起こすRC部材の応力(その2 実験結果に対する考察・検討)、日本建築学会大会(九州)学術講演会梗概集 pp.677-678、2025.9
- ◆引田翔太、浜原正行、福井剛、深谷勇介、柴山淳：プレキャストPC梁の力学的性状に及ぼす部分アンボンド領域長さの影響に関する実験的研究(その4 実験概要及び実験結果)、日本建築学会大会(九州)学術講演会梗概集 pp.697-698、2025.9
- ◆深谷勇介、浜原正行、福井剛、引田翔太、柴山淳：プレキャストPC梁の力学的性状に及ぼす部分アンボンド領域長さの影響に関する実験的研究(その5 実験結果に対する考察)、日本建築学会大会(九州)学術講演会梗概集 pp.699-700、2025.9
- ◆小池正大、浜原正行、福井剛：アンボンドPCaPC部材の破壊モードと応力伝達機構(その6 提案理論の等分布荷重を受ける梁とアーチ

教員研究業績 研究室活動業績

機構モデルへの適用), 日本建築学会大会(九州) 学術講演会梗概集 pp.709-710, 2025.9

- ◆ 浜原正行, 福井剛, 小池正大: アンボンド PCaPC 部材の破壊モードと応力伝達機構(その7 提案理論の RC 部材への適用), 日本建築学会大会(九州) 学術講演会梗概集 pp.711-712, 2025.9
- ◆ 福井剛: Proposal on Prestressed Laminated Timber Beams and Report on Full-Scale Bending Tests, 国際海洋建築シンポジウム(韓国釜山), 2025.9
- ◆ 萬谷桃香, 引田翔太, 中尾有貴, 深谷勇介, 福井剛: アンボンド領域長さがプレキャスト PC 梁の地震時挙動に及ぼす影響に関する実験的研究(その1 実験概要), 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造強度部会 pp.17-18, 2025.12
- ◆ 中尾有貴, 引田翔太, 萬谷桃香, 深谷勇介, 福井剛: アンボンド領域長さがプレキャスト PC 梁の地震時挙動に及ぼす影響に関する実験的研究(その2 実験結果), 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造強度部会 pp.19-20, 2025.12
- ◆ 引田翔太, 中尾有貴, 萬谷桃香, 深谷勇介, 福井剛: アンボンド領域長さがプレキャスト PC 梁の地震時挙動に及ぼす影響に関する実験的研究(その3 実験結果), 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造強度部会 pp.21-22, 2025.12
- ◆ 齊藤亮太, 橋本倭里, 福井剛, 柴山淳: AAM を用いたアンボンド PC 梁の長期曲げ性状に関する実験的研究(その1 長期曲げ載荷試験概要とプレストレス有効率), 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造強度部会 pp.23-24, 2025.12
- ◆ 橋本倭里, 齊藤亮太, 福井剛, 柴山淳: AAM を用いたアンボンド PC 梁の長期曲げ性状に関する実験的研究(その2 たわみおよびひび割れ性状), 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造強度部会 pp.25-26, 2025.12

著書・執筆等

- ◆ 福井剛, 原口圭: わが国最古の PC 建築物の解体・劣化調査—JR 浜松町駅上家—, 第52回プレストレスコンクリート技術講習会テキスト, プレストレストコンクリート工学会, 2025.6
- ◆ 福井剛: プレストレストコンクリート Vol.67 No.4・巻頭言「PC 板の功労と遺言」, プレストレストコンクリート工学会, 2025.7
- ◆ 福井剛: PC 造建物の性能評価に関わる課題の整理—アンボンド PC 部材の性能評価と設計法—, 日本建築学会大会(九州) 構造部門(PC 構造) パネルディスカッション資料, 2025.9
- ◆ 福井剛ほか: プレストレスト鉄筋コンクリート(Ⅲ種 PC) 構造設計・施

工指針・同解説, 日本建築学会, 2026.3

学外活動(講演・講義等)

- ◆ 福井剛: わが国最古の PC 建築物の解体・劣化調査—JR 浜松町駅上家—, 第52回プレストレスコンクリート技術講習会(オンライン), プレストレストコンクリート工学会, 2025.6.2~23
- ◆ 福井剛: PC 鋼材の部分アンボンド化, 日本建築学会大会(九州) 構造部門(PC 構造) パネルディスカッション, 2025.9
- ◆ 福井剛: Proposal on Prestressed Laminated Timber Beams and Report on Full-Scale Bending Tests ~プレストレスを導入した集成材梁の提案および実大曲げ実験報告~, 国際海洋建築シンポジウム(韓国釜山), 2025.9

学外活動(委員会活動等)

- ◆ 日本建築学会・プレストレスコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・プレストレスコンクリート規準指針小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・プレストレスコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆ 日本建築学会・プレストレスコンクリート材料・施工 WG 委員
- ◆ 日本建築学会・関東支部・PC 建築専門研究委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・関東支部・講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会・関東支部・講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定 WG 主査
- ◆ プレストレストコンクリート工学会 役員(理事)
- ◆ プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆ プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆ プレストレストコンクリート工学会・PC 鋼材委員会 委員
- ◆ プレストレストコンクリート工学会「歴史的にみたプレストレスコンクリート建築と技術」続編編集委員会 委員
- ◆ 日本 ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員
- ◆ 日本建築総合試験所・建築技術性能認証委員会・専門委員会 委員

研究助成・受託研究

- ◆ 福井剛: 研究奨励寄付金, オリエンタル白石株式会社, PC 鋼材の付着の有無が PC 部材のせん断伝達機構に及ぼす影響に関する研究
- ◆ 福井剛: 研究奨励寄付金, 株式会社フジタ, 高耐久・高耐力なコンクリート構造建築の開発

高橋研究室

口頭発表・ポスター発表

《日本建築学会学術講演会》

- ◆ 郡司 康浩, 高橋 孝二, 菅野 秀人, 西田 哲也: 壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の設計モデルに関する検討, 日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.163-164, 2025.7.
- ◆ 友枝 一馬, 高橋 孝二: 簡易モデルによるスタジアム屋根の耐震設計法に関する研究, 日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.711-712, 2025.7.
- ◆ 小川 達海, 宇賀神 将, 高橋 孝二: 下部構造の水平振動を考慮した片持ち屋根の地震応答に関する研究 その1 回転剛性と片持ち屋根の張り出し長さが推定式に与える影響について, 日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.411-412, 2025.7.
- ◆ 宇賀神 将, 小川 達海, 高橋 孝二: 下部構造の水平振動を考慮した片持ち屋根の地震応答に関する研究 その2 大規模スタジアムへの適用性と水平動+上下動同時入力, 日本建築学会大会(近畿) 学術

講演会梗概集 pp.413-414, 2025.7.

- ◆ 王 珂, 高橋 孝二: 長周期地震動を受ける平面的な偏心を持つ RC 造超高層建物の地震応答解析, 日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.757-758, 2025.7.
- ◆ 高橋 孝二, 伊原 黎, 尾崎 太亮, 内藤 隼汰, 古澤 知也, 山崎 康雄: 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの開発 その1 接合システムの概要, 日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.723-724, 2025.7.
- ◆ 尾崎 太亮, 伊原 黎, 内藤 隼汰, 古澤 知也, 山崎 康雄, 高橋 孝二: 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの開発 その2 靱性型 GIR 接合の引抜き要素実験の概要, 日本建築学会大会(近畿) 学術講演会梗概集 pp.725-726, 2025.7.
- ◆ 伊原 黎, 尾崎 太亮, 内藤 隼汰, 古澤 知也, 山崎 康雄, 高橋 孝二: 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの開発 その3 靱性型 GIR 接合の引抜き要素実験の結果, 日本建築学会

教員研究業績 研究室活動業績

大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.727-728, 2025.7.

- ◆古澤 知也, 伊原 黎, 尾崎 太亮, 内藤 隼次, 山崎 康雄, 高橋 孝二: 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの開発 その4 片持ち形式の梁曲げ実験の概要, 日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.729-730, 2025.7.
- ◆内藤 隼次, 伊原 黎, 尾崎 太亮, 古澤 知也, 山崎 康雄, 高橋 孝二: 多層木質純ラーメン構造を可能とする柱梁接合システムの開発 その5 片持ち形式の梁曲げ実験の結果, 日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.731-732, 2025.7.
- ◆長井 晴彦, 高橋 孝二, 内藤 隼次: 木造と鉄筋コンクリート造による平面混構造建物の構造特性に関する解析的研究, 日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.755-756, 2025.7.
- ◆石井 勇我, 内藤 隼次, 小寺 直幸, 高橋 孝二: CLT 耐震壁付き鉄骨造建物の設計法に関する研究（その3）解析モデルの違いが剛性と応力分布に及ぼす影響, 日本建築学会大会（近畿）学術講演会梗概集 pp.1565-1566, 2025.7.

《日本大学理工学部学術講演会》

- ◆石原和馬, 小倉悠平, 仲村成貴, 新井寿昭, 高橋孝二: 地盤-杭基礎系模型の振動台実験時における自由地盤の震動特性, 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.97-98, 2025.12.
- ◆荻野 凌, 小倉悠平, 仲村成貴, 新井寿昭, 高橋孝二: モーションキャプチャを用いた剛体の微小振幅計測, 第69回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.99-100, 2025.12.
- ◆尾崎太亮, 高橋孝二, 郡司康浩: 壁脚部のみに水平スリットを有するRC袖壁付き柱を含む架構の解析的検討, 第69回日本大学理工学部学術

講演会 構造・強度部会 pp.91-92, 2025.12.

所属学生の受賞等

- ◆友枝一馬: 日本建築学会大会学術講演会シェル・空間構造部門若手優秀発表賞, 簡易モデルによるスタジアム屋根の耐震設計法に関する研究, 日本建築学会, 2025.7.

学外活動（講演・講義等）

- ◆高橋孝二: 令和6年能登半島地震の地震活動による建築物の被害状況, 第12回海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム, 2025.

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会関東支部・PC建築専門研究委員会（委員）
- ◆日本建築学会・フローティング建築小委員（委員）
- ◆ハウスプラス・構造評定委員会（委員）

研究助成・受託研究

- ◆高橋孝二: 共同研究, 西松建設(株), 水平スリットのみを配置する鉄筋コンクリート造袖壁付き柱構造の性状把握に関する共同研究
- ◆高橋孝二: 共同研究, 西松建設(株), 中大規模木造建築物の制震化による耐震性向上、応答低減効果に関する共同研究
- ◆高橋孝二: 共同研究, 西松建設(株), 木質ラーメン構造を実現するための新構法に関する共同研究
- ◆高橋孝二: 共同研究, 西松建設(株), 杭基礎の構造ヘルスマニタリングに関する共同研究

星上研究室

審査付論文

- ◆増田遥, 宇多高明, 船木陽翔, 野志保仁: 沿岸・岸向き漂砂の同時作用による中津三百間砂州の変形, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), 第81巻18号, 2025.7.
- ◆Funaki, H., Uda, T., and Noshi, Y.: Formation of sandy beach, spawning ground of horseshoe crab, and coastal vegetation by deposition of sand originating from tidal flat, Proc. 12th Int. Conf. on Asian and Pacific Coasts (APAC2025), 2025.11.
- ◆船木陽翔, 宇多高明, 野志保仁: 干潟起源の漂砂によりカブトガニ産卵地, 砂浜, 植生帯を同時に広げる方法, 土木学会論文集 (海岸工学), 81巻17号, 2025.11.
- ◆生田目瑠偉, 宇多高明, 野志保仁: 季節的水位変動を有する猪苗代湖での砂嘴の発達と変形, 土木学会論文集 (海岸工学), 81巻17号, 2025.11.

口頭発表・ポスター発表

- ◆星上幸良・小河原玲音・小林昭男・堀田健治: 東京湾奥部でのコンブを活用したブルーカーボンの実証試験, 日本沿岸域学会研究討論会2025講演概要集, No.37 (PDF), セッション10-3, 2025.7.
- ◆永野隼一・大竹克典・星上幸良・小林昭男: ドローン搭載型レーザーキャナーを用いた崖海岸の地層判別に関する基礎的研究, 日本沿岸域学会研究討論会2025講演概要集, No.37 (PDF), セッション4-2, 2025.7.
- ◆今市尚大・菅原遼・星上幸良: 東日本大震災後の住空間と漁港の関わりの変化に関する研究, 日本沿岸域学会研究討論会2025講演概要集, No.37 (PDF), セッション16-2, 2025.7.
- ◆星上幸良: 海洋環境の保全と防災に寄与する建築・まちづくりデザイン, 日本建築学会大会（九州）AIJ-SDG sアクション推進特別調査委員会研究協議会「SDGsにおける自然・建築・まちづくりの融合デザイン」, 2025.9.
- ◆小林昭雄: 稲毛海浜公園の防砂ネットの変形量とその前面の飛砂

堆積高に関する現地調査, 日本建築学会大会（九州）学術講演会10034, 2025.9.

- ◆星上幸良・石橋遼祐: 複合災害を考慮した津波避難リスクの可視化に関する研究, 日本建築学会大会（九州）学術講演会10037, 2025.9.
- ◆石橋遼祐・星上幸良: 複合災害を考慮した津波災害リスクの実態分析 - 千葉県館山市を例として, 日本建築学会大会（九州）学術講演会10038, 2025.9.
- ◆中村皓・星上幸良: 津波防潮堤計画時の環境影響評価指標に関する研究, 日本建築学会大会（九州）学術講演会10039, 2025.9.
- ◆横田拓也・星上幸良: 白砂青松の再生 - 衛星画像を用いた高田海岸の海浜安定性評価 -, 令和7年度日本海岸林学会陸前高田大会研究発表会, 講演要旨集, 2025.10.
- ◆佐藤稜輔・石橋遼祐・星上幸良: 津波被害が生業に与えた影響に関する研究, 2025年度日本大学理工学部学術講演会, J-12, 2025.12.
- ◆藤崎稀央・星上幸良: 千葉県南九十九里地域における地盤沈下の分布特性に関する研究, 2025年度日本大学理工学部学術講演会, J-13, 2025.12.
- ◆清水翼・星上幸良: パートラフを考慮した海浜変形予測モデルの構築に関する研究, 2025年度日本大学理工学部学術講演会, J-14, 2025.12.
- ◆酒井廉斗・星上幸良: 能登半島地震での市街地における道路閉塞要因に関する研究, 2025年度日本大学理工学部学術講演会, J-15, 2025.12.
- ◆安達大樹・石橋遼祐・中村皓・星上幸良: 教職課程における防災教育の実施状況調査, 2025年度日本大学理工学部学術講演会, J-16, 2025.12.

著書・執筆等

- ◆Young C Kim, Yuki Yoshi Hoshigami et al.: 「Coastal Disasters (Series On Coastal And Ocean Engineering Practice)」,

教員研究業績
研究室活動業績

World Scientific Publishing Company, 2025.12.28.

所属学生の受賞等

- ◆石橋遼祐（星上幸良 共著）：「優秀発表賞」，津波防災の共助に関する実態分析，2024年度日本大学理工学部学術講演会，J-17，2024.12.

学外活動（講演・講義等）

- ◆星上幸良：「津波災害に備えよう!」，東京海洋大学，海洋教育フォーラム，2025.12.3.
- ◆星上幸良：「複合災害リスクとは」，千葉県館山市，館山市防災ミーティング，2026.3.22.

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 津波 WG 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会 災害委員会 委員
- ◆日本建築学会 SDGs 対応推進特別委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会 論文編集委員・理事

研究助成・受託研究

- ◆研究寄付奨励金：海岸侵食の現象解明に関する研究，（一財）土木研究センター
- ◆研究寄付奨励金：海岸侵食の UAV 計測に関する研究，海岸研究室（有）

吉田研究室

審査付論文

- ◆Takero Yoshida, Kasumi Kogo: Time-series growth estimation of sea cucumbers (*Apostichopus japonicus*) in co-cultivation with coho salmon using time-lapse cameras in field experiments, *Aquacultural Engineering*, vol. 110, 102529, 2025.8.

口頭発表・ポスター発表

- ◆中川友進，赤松友成，大泉宏，吉田弥生，松岡大祐，吉田毅郎：機械学習によるスジイルカの鳴音の自動類別アプローチ，2025年度海洋音響学会研究発表会，2025.5.
- ◆Jinxin Zhou, Junbo Zhang, Toyonobu Fujii, Takero Yoshida, Shuchuang Dong, Qiao Li, Kazuma Endo, Daisuke Kitazawa: Numerical Examination of the Impact of Coho Salmon and Oyster Co-culture on the Surrounding Water and Sediment Quality in Onagawa Bay, *The International Society for Ecological Modelling Global Conference 2025 (ISEM2025)*, 2025.10.
- ◆Yujin Nakagawa, Tomonari Akamatsu, Hiroshi Ohizumi, Yayoi Yoshida, Daisuke Matsuoka, Takero Yoshida: An Automated Classification Approach for Striped Dolphin Whistles Using Supervised Machine Learning", *Sixth Joint*

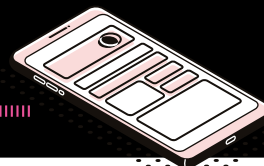
Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan, 2025.12.

- ◆Yujin Nakagawa, Tomonari Akamatsu, Hiroshi Ohizumi, Yayoi Yoshida, Daisuke Matsuoka, Takero Yoshida: Robust machine learning for dolphin whistle classification across acoustic environments", *Ocean Sciences Meeting*, Feb. 2026.2.
- ◆大島逸平，堀口祐輔，江口剛，高屋英知，吉田毅郎，西川悠：魚の活性評価に向けた光学カメラを用いた尾鰭振動周波数計測手法の提案，令和7年度日本水産学会春季大会，2026.03.
- ◆中西晴紀，渡部裕美，西川悠，吉田毅郎：深海底映像からのカルエボシ自動抽出に向けた YOLO の適用と評価，2026年度日本付着生物学会研究集会，2026.03.

学外活動（委員会活動等）

- ◆東京大学・生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆一般財団法人東京水産振興会・豊洲市場を中心とした水産物マーケットに関する調査研究 委員
- ◆45th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAEO2026)・Topic Organizer

最新情報を SNS でチェック!!



日韓シンポジウム参加報告

理工学部海外学術交流提携校である韓国海洋大学校との「国際海洋建築シンポジウム(第12回日韓シンポジウム)」が、2025年9月26日に釜山にて開催され、海洋建築工学科から5名の先生方が参加して学術交流を深めました。同日午後には、韓国海洋大学校海洋科学技術大学海洋空間建築学部創設30周年記念シンポジウムと懇親会も開催されました。

韓国海洋大学校(海洋科学技術大学海洋空間建築学部)との学術交流は、1999年に海洋建築工学科と学科間の合意書を交わしたことから始まり、2002年にこれを格上げして学部間による覚書を締結するに至っています。韓国海洋大学校とは、ダブル・デグリー・プログラム(日本大学大学院と韓国海洋大学大学院の2つの学位(修士)を取得する制度)も締結されており、現在、本学科の大学院生がこの制度を利用して留学中です。

日韓シンポジウムも、2000年8月に1回目のシンポジウムが開催されて以来、隔年開催にて今回で12回目となりました。今回のシンポジウムでは、日本大学からは、直近の能登半島地震を含めた建物被害状況と対応策、被災後の沿岸域の復興状況について発表しました。韓国海洋大学校からは、韓国の気象状況を考慮した雨水の活用手法や、海洋での活用も期待される高強度のコンクリート等についての発表があり、様々な視点から、活発な議論が展開されました。

なお、日韓シンポジウムが開催されない隔年には、「日韓中デザインキャンプ」が釜山で開催され、3か国の学生間交流が行われています。次回は2026年の夏休みに開催予定です。



海洋建築系研究懇談会(桜門建築会主催)開催報告

海洋建築系研究懇談会では、海洋建築分野に関する最新動向や研究活動に関して、毎年講演会を開催しています。令和7年度では、合計3回(海洋建築工学科1名と外部講師2名)の講演会が開催され、様々な意見交換が行われました。本講演会は桜門建築会の会員に加えて、海洋建築工学科の学生など誰でも参加自由ですので、是非、海洋建築分野における新しい知識の習得や議論の場として活用してください。

(幹事: 恵藤浩朗)

開催日	講演タイトル	講演者	講演内容
2025年 6月17日	環境に調和した海洋利用に関する研究の紹介	吉田毅郎 (海洋建築工学科 准教授)	海洋構造物周辺での魚類のモニタリングや付着物の解析、港湾内や養殖場周辺の調査および環境保全の検討、海洋環境におけるAI・データサイエンスの応用などをご講演いただきました。
2025年 7月11日	環境をまとう建築の姿 - 過疎、高齢化が進む多雪地域 -	杉田陽平 (株式会社 竹中工務店 設計部)	地域社会が直面している課題や自然環境を考慮しながら、地域活性化と生活の質向上に貢献する建物の事例を紹介していただきました。本講演は、2024年度 佐野利器賞を受賞された『コトを働きかける「まちの縁側」』を主にご講演いただきました。
2026年 2月20日	海洋システムのデジタル化と 脱炭素化が拓く未来	Kazuo Nishimoto (サンパウロ大学 工学部 船舶海洋工学科 教授)	ブラジルおよび世界のオフショア産業において、デジタル化と脱炭素化がどのように技術革新をもたらしているのかご講演いただきました。また、サンパウロ大学が誇る主要設備や新プロジェクトについても紹介していただきました。



2025年6月17日



2025年7月11日



2026年2月20日

令和8年度

大学院情報

海洋建築工学専攻では、以下の4つの科目群（環境系・計画系・構造系・総合）からなる授業科目と、4つの特別研究（海洋環境工学・海洋空間利用計画・海洋建築構造工学・海洋建築工学）からなる研究領域について、専門教員が指導します。

海洋建築工学専攻 履修モデル

科目群	< 学部関連科目 > (参考)	博士前期課程 1年次		博士前期課程 2年次	
		前期	後期	前期	後期
環境系	海洋環境工学	海洋環境工学特論Ⅰ (海洋物理環境)	海洋環境工学特論Ⅱ (海洋化学生物環境)	海洋環境工学特別研究 海洋空間利用計画特別研究 海洋建築構造工学特別研究 海洋建築工学特別研究 ※上記特別研究は、下表の 専門教員が指導します。	
	海洋環境アセスメント	海洋システム工学特論	海洋環境マネジメント特論		
	海洋及び環境計測	海洋計測工学特論			
	水波工学	水波工学特論			
計画系	建築計画/海洋施設計画/ 親水空間計画	海洋建築計画特論	親水環境計画特論		
	デザイン演習	海洋建築デザイン特論	海洋建築ユニバーサル デザイン特論		
	海洋空間計画と関連法規/ ウォータフロント計画	港湾空間計画特論	ウォータフロント計画特論		
	海洋資源と開発技術/防災安全工学	海洋空間利用計画特論	沿岸防災計画特論		
構造系	構造力学/構造解析/振動工学/鋼構造	耐震構造設計特論	応答制御構造設計特論		
	建築施工法/コンクリート構造	海洋建築構造工学特論Ⅰ (構造システム工学)	コンクリート構造工学特論		
	地盤環境工学/防災安全工学	地盤基礎工学特論	海洋建築構造工学特論Ⅱ (地震リスク評価)		
	浮体工学/海洋構造物の構造計画	浮体工学特論	海洋構造物設計特論		
	海洋建築の材料と施工法/沿岸域工学	海洋構造物建設特論	沿岸構造物設計特論		
総合		海洋建築技術者倫理	海洋建築プロジェクトマネジメント	海洋建築特別演習	
		計算工学特論Ⅰ(数値流体力学)	計算工学特論Ⅱ(連続体力学)		
		海洋建築情報システム工学特論	海洋建築工学特別講義Ⅰ (寄付講座)	海洋建築工学 特別講義Ⅱ	
		海洋建築インターンシップⅠ・Ⅱ			
		海洋工学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			

大学院特別研究担当教員（博士前期課程）

授業科目	単位数	資格	学位の種類	担当教員	授業科目	単位数	資格	学位の種類	担当教員
海洋環境工学 特別研究	6	教授	博士(工学)	居駒 知樹	海洋建築工学 特別研究	6	教授	博士(工学)	高橋 孝二
		教授	博士(工学)	星上 幸良			教授	博士(工学)	居駒 知樹
		准教授	博士(環境学)	吉田 毅郎			教授	博士(工学)	星上 幸良
海洋空間利用計画 特別研究	6	教授	博士(工学)	居駒 知樹			教授	博士(工学)	惠藤 浩朗
		教授	博士(工学)	惠藤 浩朗			教授	博士(工学)	佐藤 信治
		教授	博士(工学)	佐藤 信治			教授	博士(工学)	北嶋 圭二
		教授	博士(工学)	星上 幸良			教授	博士(工学)	福井 剛
		准教授	博士(工学)	江川 香奈			准教授	博士(工学)	江川 香奈
		准教授	博士(工学)	山本 和清			准教授	博士(工学)	山本 和清
		准教授	博士(工学)	長谷川 洋平			准教授	博士(工学)	長谷川 洋平
		准教授	博士(工学)	相田 康洋			准教授	博士(環境学)	吉田 毅郎
		准教授	博士(工学)	相田 康洋			准教授	博士(工学)	相田 康洋
海洋建築構造工学 特別研究	6	教授	博士(工学)	北嶋 圭二			准教授	博士(工学)	扇谷 匠己
		教授	博士(工学)	福井 剛					
		教授	博士(工学)	高橋 孝二					
		准教授	博士(工学)	扇谷 匠己					

令和
7
年度

卒業生の就職状況および就職活動に向けて

1. 就職状況の全体像

2026年2月末時点の進学・就職状況を(表1)に示します。就職希望者の就職内定率は、学部97%、大学院97%となりました。令和7年度の就職活動は、2024年4月1日に施行された「働き方改革関連法」に起因して建設業界は深刻な人材不足、若手不足に陥り、各社とも人材の確保に積極的に取り組んでいます。ここ数年の就職状況は大変、堅調な状態であると言えます。

2. 業種別就職内定先

本学科の2026年3月卒業学生の主要内定企業一覧を(表2)に示します。就職先は、建設業(ゼネコン)が最も多く、令和7年度は68名であり全体の57%を占めています。また、設計事務所・不動産は11名(9%)、であり、これらで全体の約7割を占めています。また、比較的土木よりの業種である建設コンサルタントへの就職が17名(14%)いることや建設業の中でもマリコン(表中の*)

が多いことが本学科の特徴です。内定先企業名をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。

3. 就職活動のサポート

就職活動に際しては、学科が積極的なサポートを行っています。就職活動スケジュールを(表3)に示します。新3年生の前期の授業として「海洋建築工学キャリアデザイン」を実施しています。本授業では、最新の企業動向や就職活動における重要な情報を伝えます。また、大手のゼネコンや設計事務所、コンサルタントに内定した先輩方の体験談を座談会形式で聞くこともできます。これまでの就職指導の経験を通して、海洋建築工学科の学生の適性や嗜好を踏まえた内容としているため、他にはないものになっています。

海洋建築工学科OBOGによる会社説明会である「カイケンJOBスクール」(表3)では、海建の学生を熱望する企業が30社以上参加します。本来、これらの企業をすべて訪問するには、おそらく半年

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

	学部			大学院			学部・院 合計
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計	
学生数(人)	124	42	166	35	4	39	205
就職希望者(人)	66	22	88	29	4	33	121
内定	63	22	85	28	4	32	117
未定	3	0	3	1	0	1	4
内定率(%)	95	100	97	97	100	97	97
進学希望者(人)	34	15	49	1	0	1	50
決定	27	14	41	0	0	0	41
未定	7	1	8	1	0	1	9
その他(人)	24	5	29	5	0	5	34
留学	1	1	2	2	0	2	4
休学・その他	16	4	20	1	0	1	21
卒研・修論未着手	7	0	7	2	0	2	9

表2 主要就職先企業一覧

*マリコン

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	清水建設	5	1	建設業	松井建設	1		建設 コンサル タント	エイト日本技術開発	1	
	大成建設	10	2		新日本建設	1			日本エンジニアリング	4	
	大林組	4	1		栗本建設	1			日本工営		1
	鹿島建設	1			長谷工リフォーム	1			八千代エンジニアリング	1	1
	竹中工務店	3	1		東洋建設*	2			オオバ	1	
	戸田建設	4			若築建設*	2			東京建設コンサル		1
	フジタ	2	2		五洋建設*	1			CRESS FEED	1	
	前田建設工業	1			東亜建設工業*	2	1		フジヤマ	1	
	西松建設	2	1		日本設計		1		大和ハウス		1
	熊谷組	1			NTT ファシリティーズ	1			日神不動産	1	
	長谷工コーポレーション	1		松田平田設計		1	プレサンスコーポレーション	1			
	安藤ハザマ	1		クロスファクトリー	1		東京都		1		
	青木あすなろ	1		隈研吾建築都市設計事務所	1	1	港区	1			
	佐藤工業		1	日本港湾コンサルタント	1		さいたま市	1			
	大豊建設		1	中央コンサルタンツ		1	国土交通省東京航空局		1		
	ナカノフドー建設		1	パンフィックコンサルタンツ		2	りそな銀行	1			
	北野建設		1	国際航業		1	東洋エンジニアリング	1	1		
	大本組		1	港湾空港総合技術センター		1					

学科就職担当 高橋孝二・星上幸良・寺口敬秀

以上かかるでしょう。建築、土木、建設コンサルタント、エンジニアリングなど、様々な企業の情報を収集することができます。視野を大きく広げる機会としてください。また、建築学科との共催による「OBOGと学生との懇談会」(表3)は、建築関連企業に特化した就職イベントです。大手ゼネコンを含む約80社が参加し、企業側の説明者は両学科のOBOGです。建設業に進む学生の8割は、これらのイベントの参加企業に就職しています。各種イベントを最大限に有効活用し、日本大学の強みであるOBOGネットワークを駆使して、希望する企業への就職内定を勝ち取りましょう。

令和8年度の学科の就職指導担当は星上先生、扇谷先生、寺口先生と学科教室事務の担当者がフォローします。学科教室事務室は13号館3階1331室です。対応時間は平日9～17時です。また、moodleの「2028卒 就職関連情報」ページには、学科の就職イベントやインターンシップおよび会社説明会、求人情報などを随時掲載しています。こまめに確認するように心掛けてください。さらに、13号館1階の「キャリア支援センター」では、企業情報やOBOGの活動履歴の閲覧に加え、履歴書の作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んでみてください。

4. 本年度の就職活動に向けて

企業の採用活動の時期は、年々早期化する傾向が見られます。大手ゼネコンや大手設計事務所は、かなり早期に採用活動を開始しています。有利に就職活動を進めるためには、夏期インターンシップ(8～9月頃)に参加するなど、情報収集を行うとともに計画性をもって活動していく必要があります。また、早期に採用活動を実施する企業は、夏期インターンシップや現場見学会において、リクルーターによる面談が行われ学生の選抜が進められます。これは実質的な面接です。年内に内々定を出す企業もあります。それ以外の多くの企業は、採用時期は若干遅くなりますが、各種の就職イベントが次々に開催されます。そのため、夏までには就職の方向性(業種・職種・企業規模等)を決めておく必要があります。各企業の開催日程が重複

するため、それほど多くのイベントには参加出来ないためです。インターンシップへの参加は就職活動の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知り、企業は学生と巡り会う機会として、双方のメリットがあるため、この数年で開催頻度が急速に増えてきており、その重要度も増す傾向にあります。特に、夏期インターンシップには、興味のある業種の企業に最低でも1つは参加しましょう。就職活動に対する意識・考え方も変わるはずで、3年生の夏休みの過ごし方は重要であり、SPI試験対策や専門試験対策、企業研究、履歴書の試作等、やるべきことが盛りだくさんです。

5. オンラインでの就職活動における留意点

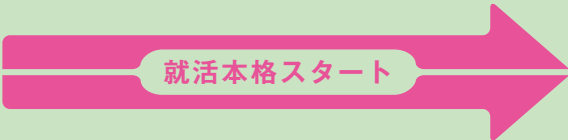

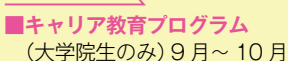
コロナ禍以降でも、対面形式に全て移行せずとオンライン形式を併用する企業が多いです。オンラインを中心とした就職活動では、大学や企業からの様々な情報を見逃さないように注意しましょう。企業の動きや同級生の活動状況が分からず、自分自身の就職活動の状態に不安を感じることもあると思います。就職指導担当の教員や所属する研究室の指導教員に相談したり、研究室の先輩の体験談を聞いたりすると方向性が見いだせるはずで、自ら積極的に情報収集を行うようにしましょう。

6. 大学院進学への勧め

海洋建築工学科では、毎年数多くの学部生が大学院へ進学しています。(表1)に示すように毎年3割以上は進学していて、理工学部内でも常にトップクラスです。大学院で更にレベルの高い学問を修得することにより、専門性を高めた仕事に就くことができます。是非、進学も視野に入れた進路を考えてみてください。

大学院の入試は、4年生の年の7月、9月、年明けの3月の3期に渡り実施されます。試験は筆記と面接になりますが、3年生までの成績による推薦入学もあるので、しっかり学修することを心がけましょう。

表3 就職スケジュール

		3年生							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
キャリアデザイン授業	(毎週木曜日5限:15週)								
	▼ ガイダンス(年間スケジュール確認、就職活動の注意事項等) ▼ 企業研究(意義とポイント) ▼ エントリーシートの書き方(自己分析) ▼ インターンシップ(参加対策、心構え) ▼ SPI等の試験対策講座 ▼ 内定者座談会(ゼネコン、設計事務所、コンサルタント) ▼ カイケンJOBスクール(6月～7月)								
共催イベント		 							

海と建築

vol.
33

海の上の建築と塩害

博多マリゾンとは、1989年3月から9月までに開催された「アジア太平洋博覧会—福岡」(愛称:よかとびあ)の参加施設『ウォーターフロントプロムナード「マリゾン」』として建設され、博覧会終了後にはリニューアルが行われて現在の姿を呈している。「マリゾン」の沿革については、「海の建築」(2021年、畔柳昭雄著)によく説明されているので、ここでは、海辺や海上の構造物に出現する環境からの圧力的一端を紹介する。

この建築物と連絡通路は、杭で支えられた鉄筋コンクリート造の人工地盤の上に建設されており、砂浜から海に突き出た「海の上の建築」と表現されることが多い。実際に訪れてみると、海浜公園の砂浜からの遠景は美しく、海洋からの潮風の香りや穏やかな波音に癒される。しかし、

潮風と波は、海洋建築物やその付帯設備に塩害という劣化現象を及ぼす。

塩害は、潮風や波の飛沫に含まれる塩分が建築物などの表面に付着することによって生じる現象である。まず美観では、建築物の表面への付着による汚れが、清掃などの維持管理面での問題になる。また、構造の面では、建築物などの表面から浸透した塩化物イオンによる鉄筋の腐食が、構造強度上の問題になる。この鉄筋の腐食は、鉄筋表面に生じた錆によりコンクリートのひび割れを生じさせ、そのひび割れに沿って浸透した塩化物イオンが鉄筋の錆をさらに進行させ、放置すれば構造物は破壊に至る。

このような現象の発生を防ぐために、鉄筋が錆びている箇所を発見する技術、錆びた鉄筋を撤去して補修する技術、鉄筋の表面に樹脂を塗布して塩化物イオンから鉄筋を防護する技術、鉄筋に通電して腐食を防ぐ技術などが実際に用いられている。塩害は海洋環境に接する建築の宿命ともいえるようではあるが、現在では対策技術に関する研究開発もさらに発展しており、積極的な塩害対策が可能になっている。

(名誉教授 小林昭男)



博多マリゾン全景



連絡通路の上から見た建築物



建築を支える杭と桁基礎



腐食した鉄筋 (日大下田実習所)



教員異動等

昇格：教授 惠藤浩朗 先生
昇格：教授 佐藤信治 先生
着任：准教授 扇谷匠己 先生
着任：非常勤講師 青木秀史 先生
着任：非常勤講師 一條真人 先生
着任：非常勤講師 出江潤 先生

着任：非常勤講師 大澤弘敬 先生
着任：非常勤講師 佐藤秀人 先生
着任：非常勤講師 柴山淳 先生
着任：非常勤講師 松井創斗 先生
着任：客員教授 深井悟 先生
着任：非常勤講師 菅原遼 先生

退任：特任教授 近藤典夫 先生
(4月より非常勤講師)
退任：特任教授 桜井慎一 先生
(4月より非常勤講師)

小林昭男 先生 日本大学名誉教授の称号を授与



カイケンマガジン No.125

発行者／高橋孝二 発行日／令和8年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部海洋建築工学科教室
Tel：047-469-5420 (事務室)
Fax：047-467-9446

編集委員：江川香奈、吉田毅郎
<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.